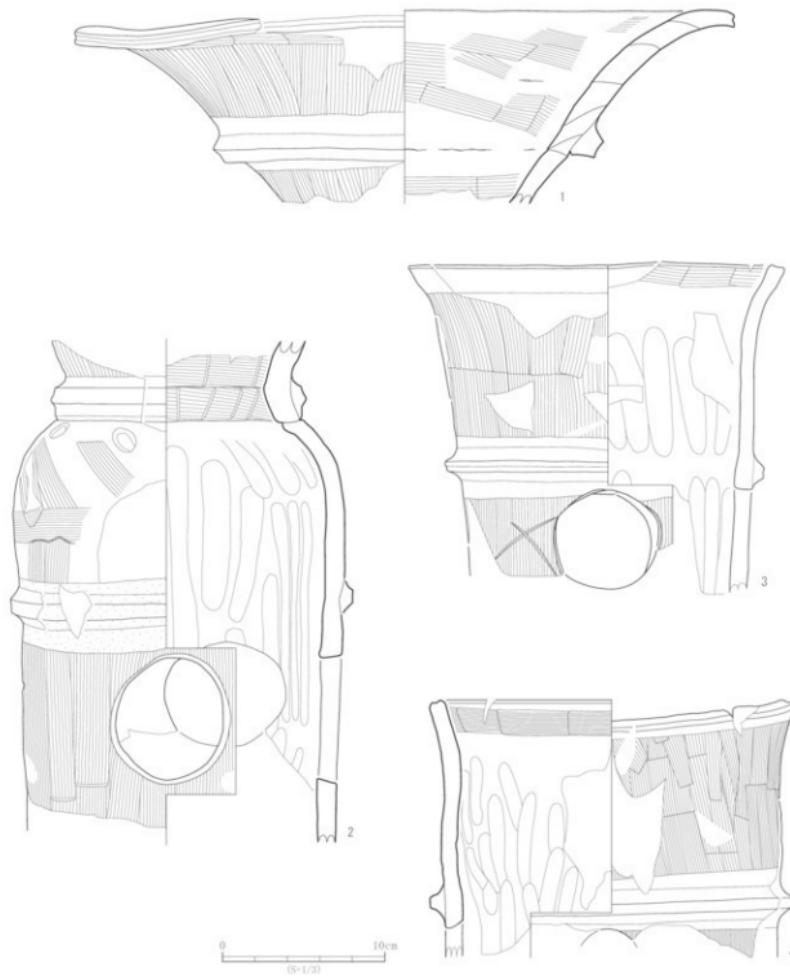
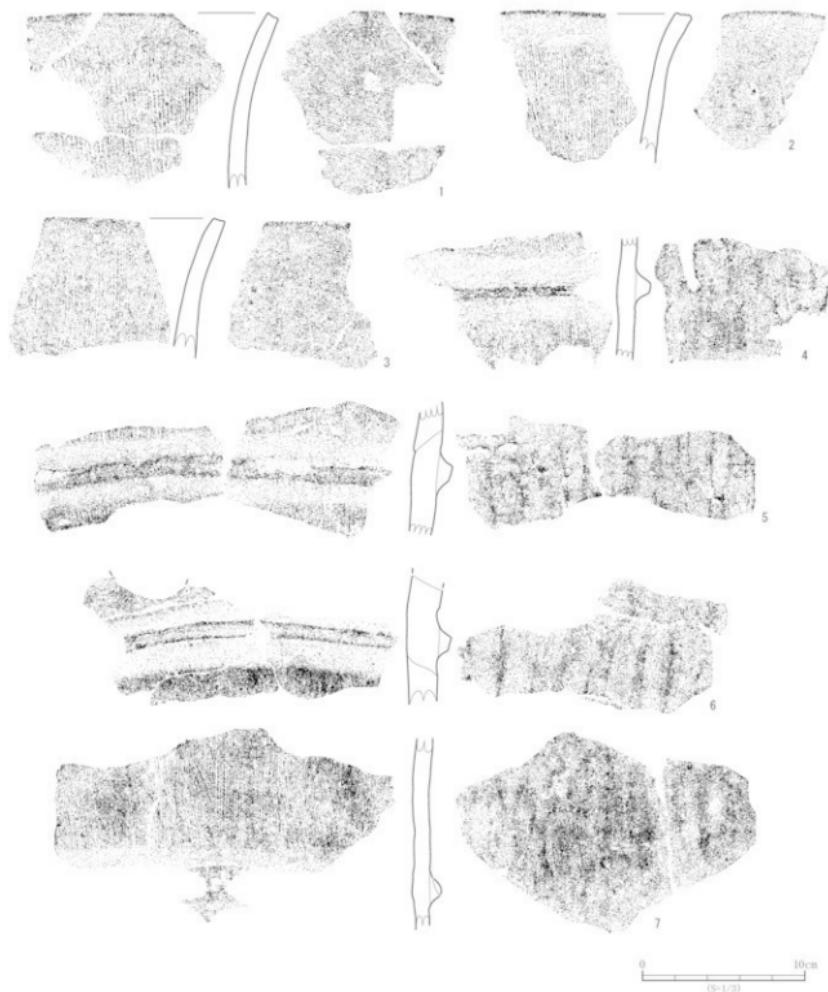


第15図 28号墳出土遺物（1）



第16図 28号出土遺物（2）

No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	法量(㎤)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	S-1	28号頃	堆積土、埴輪	倒壊	倒壊	400×100×10 内部幅117高さ312	ヨコナデ・タテハケメ	ヨコナデ・ヨコハケメ		15-6
2	S-2	28号頃	堆積土、埴輪	倒壊	倒壊	150×100×10 内部幅104高さ307 250×100×1087285508 250×100×1087285508	タテハケメ・ヨコハケメ・ナデ	ヨコハケメ・ナデ	()側面凸帯、 上部面凸帯。	15-7
3	S-3	28号頃	堆積土、埴輪	円筒	円筒	252×100×100 内部幅100高さ306	ヨコナデ・タテハケメ	ナデ・ハケメ	透し付窓に「X」字の範囲あり。	15-8
4	S-4	28号頃	堆積土、埴輪	円筒	円筒	222×100×100 内部幅100高さ309	ヨコナデ・タテハケメ	ヨコハケメ・ナデ		15-9



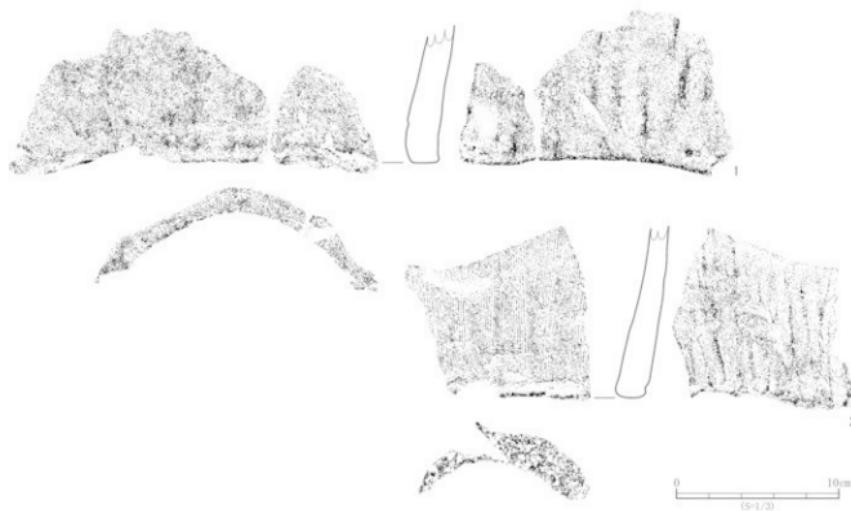
No.	登録番号	出土遺物	置 位	種 別	部 位	法 長	法 宽 (mm)	外面調整	内面調整	施 号	写真回数
1	S-5	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	10.8	ヨコナギ・タチハケメ	ヨコナギ・ヨコハケメ	16-1	
2	S-6	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	9.2	ヨコナギ・タチハケメ	ナゲ	16-2	
3	S-7	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	8.5	ヨコナギ・タチハケメ	ヨコナギ・ヨコハケメ・ナゲ	16-3	
4	S-8	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	7.5	タチハケメ・ヨコナギ	ナゲ	16-4	
5	S-9	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	7.5	ヨコナギ・タチハケメ	ナゲ	16-5	
6	S-10	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	×-規	6.0	ヨコナギ・タチハケメ	ナゲ	16-6	
7	S-11	28号墳	埴縁土	埴縁	円筒	-×-規	5.5	タチハケメ・ナゲ	ナゲ	16-7	

第17図 28号墳出土遺物（3）



第18図 28号墳出土遺物（4）

No.	分類番号	出土遺物	層位	種別	断面	法量(cm)	外周調整	内面調整	備考	写真(6枚)
1	S-12	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周12.6 内径11.7±2.5±3.07	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ	透し一部遺存。	16-8
2	S-13	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周12.4 内径11.7±2.5±3.13	ヨコナギ・タテハケメ	ナゲ		16-9
3	S-14	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周12.4 内径11.7±2.6±3.08	ヨコナギメ・ヨコナギ	ナゲ		16-10
4	S-15	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周12.6	タテハケメ	ナゲ	透し一部遺存。	16-11
5	S-16	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周14.5	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ		16-12
6	S-17	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周12.1 内径11.7±2.0±3.08	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ		16-13
7	S-18	28号墳	埴生土	埴輪	円筒	-×- 周17.9	タテハケメ・前オサヌ・ナゲ	ナゲ・前オサエ		16-14



第19図 28号墳出土遺物（5）

いたものと考えられる。規模は径17~24cm、深さ18~29cmである。柱痕跡は確認されていない。

【出土遺物】堆積土から土師器の小片が出土した。

S1380豎穴住居跡（第21図、図版4）

【位置】W 40・S190~200グリッドに位置し、西側はSD370により失われている。

【新旧関係】SD370・371・377と重複関係にあり、本住居跡が古い。

【規模・形態】南北4.60m、東西検出長3.80mで、平面形は方形であると思われる。

【主軸方向】カマドが検出されていないため不明であるが、東壁の方向はN-22°-Eである。

【堆積土】3層に分層した。1~3層は住居跡堆積土である。

【壁面】床面からやや外傾して立ち上がり、壁高は床面から24cmである。

【柱穴】主柱穴は確認されていないが小規模なビットが5基検出された。規模は径20~40cm、深さ3~42cmである。柱痕跡は確認されていない。

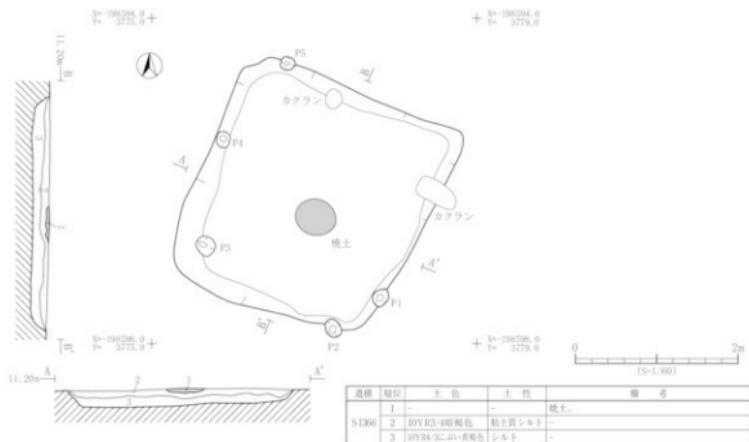
【出土遺物】堆積土から土師器壺・甕が出土しており、そのうち3点を第22図に図示した。1・2は小型の土師器壺である。1は丸底で口縁部が短く外反する器形である。2は平底で口縁部が短く立ち上がる。3は底部片である。その年代は4世紀後半から5世紀前半と推定され、塙釜式の範疇に収まると考えられる。

S1384豎穴住居跡（第23図、図版4）

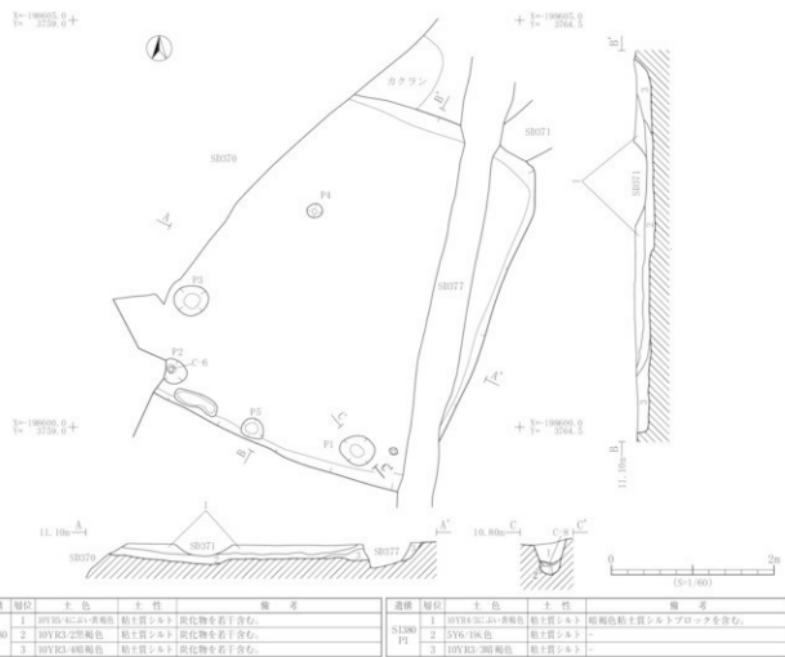
【位置】W 50~60・S200グリッドに位置し、東壁の一部を除いて調査区外へ延びる。

【新旧関係】SD370と重複関係にあり、本住居跡が古い。

【規模・形態】規模・形態は不明で、検出規模は東西約6.6m、南北約3.1mである。



第20図 S1366堅穴住居跡平面図・断面図



第21図 S1380堅穴住居跡平面図・断面図

第5節 大野田古墳群7区の調査



第22図 S1380竪穴住居跡出土遺物

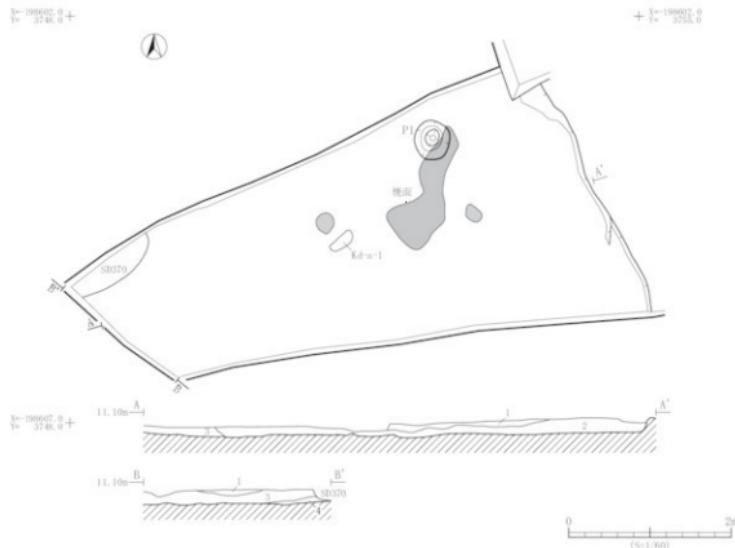
【主軸方向】住居跡の全容が明らかでないため不明であるが、東壁の方向はN-28°-Wである。

【堆積土】4層に分層した。住居跡堆積土である。

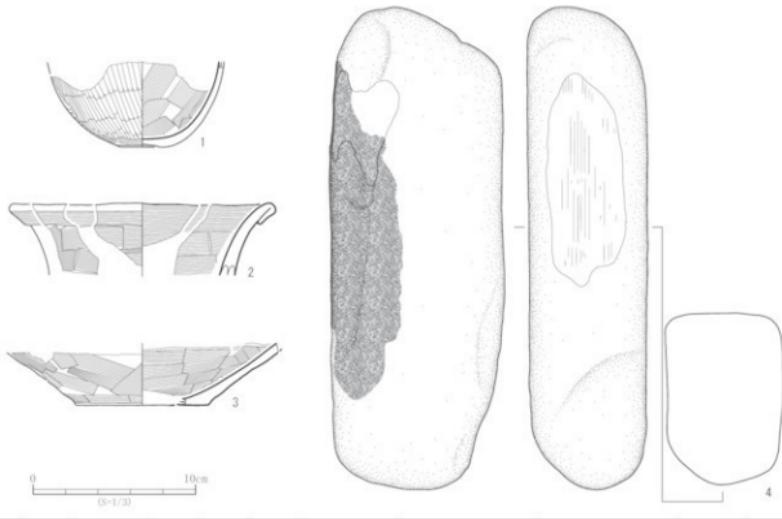
【壁面】床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は東壁で床面から20cmである。

【柱穴】主柱穴は不明であるが、径50cm、深さ17cmのP 1が柱穴と考えられる。柱痕跡は検出されていない。

【出土遺物】堆積土から土師器片が少量出土し、床面から砾石が1点出土しており、そのうち土師器3点と砾石1点を第24図に図示した。1は塊と思われる器形で、部体上半を欠損している。2は折り返し口縁となる壺の口縁部片である。3は壺の底部片で、器壁は薄い。4の砾石は角柱状で、使用面は1面にのみ確認され、縱線の線条痕が観察される。出土した土師器から本住居跡の年代は概ね5世紀前半頃の古墳時代前期と考えられる。



第23図 S1384竪穴住居跡平面図・断面図



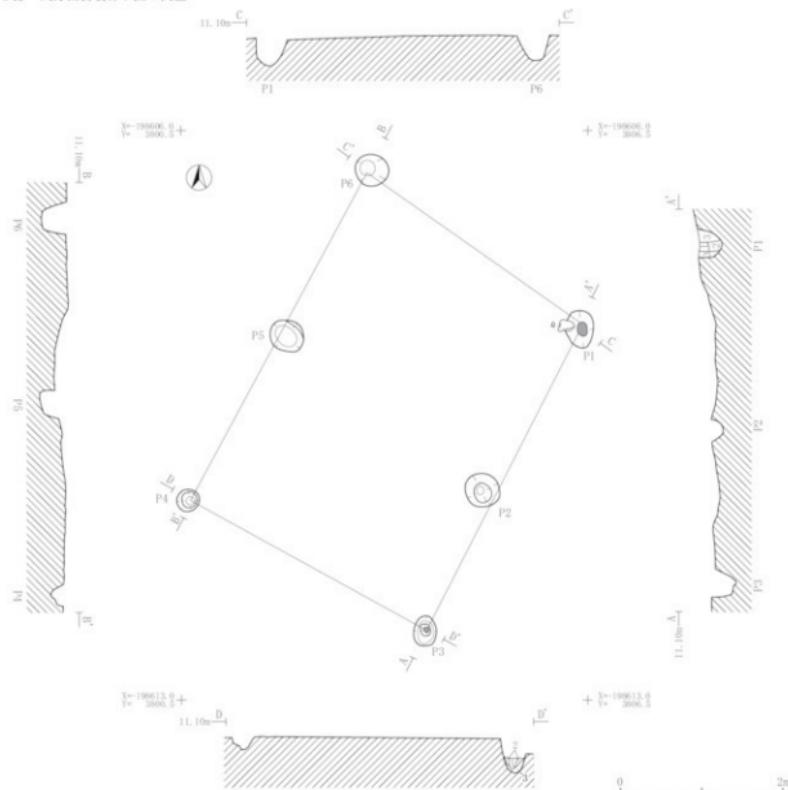
第24図 S1384竪穴住居跡出土遺物

3) 挖立柱建物跡

SB341掘立柱建物跡（第25図）W0-E0・S200~210グリッドに位置する。SK303・341と重複関係にあるが、直接的な切り合い関係がないことから新旧は不明であるが、同時併存の可能性もある。また、本遺構とSB382は主軸方向をほぼ同じくすることから、大型の掘立柱建物跡であるSB382の付属施設とすることも考えられる。桁行2間（東側柱列は北から2.40m+1.80m・総長4.20m、西側柱列は北から2.25m+2.40m・総長4.65m）で、梁行1間（北側柱列・南側柱列とも3.30m）の建物である。桁行柱列方向はN-27°-Eでやや東に振れている。柱穴の平面形はほぼ円形か梢円形で、長軸28~46cm、短軸26~42cm、深さ17~56cmである。柱痕跡はP1・P3で確認され、径10~13cmである。遺物は出土していない。

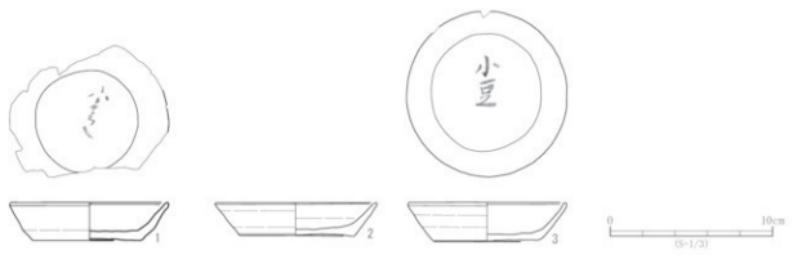
SB382掘立柱建物跡（第27図、図版5）W0-E0~E10・S200~210グリッドに位置する。SX304、SD313、SR314、小溝状遺構I-11・12と重複関係にあり、本遺構が新しい。V層で確認したが、Ⅲ層面から掘り込まれた遺構と思われる。桁行4間（東側柱列北から2.85m+2.25m+2.55m+5.25m・総長12.90m、西側柱列北から3.00m+2.10m+2.55m+5.25m・総長12.90m）、梁行2間（北側柱列西から2.85m+3.00m・総長5.85m、南側柱列西から3.00m+2.40m・総長5.40m）の建物である。また、建物南東側のP4~6・13の配置をみると、東に開いた「コ」字状に見受けられ、この部分が入口である可能性が考えられる。桁行柱列方向はN-27°-Eで、やや東に振れている。柱穴の平面形は梢円形・隅丸長方形・溝状と様々で、規模は梢円形が長軸85~170cm、短軸53~80cm、深さ15~60cm、隅丸長方形が長軸120~147cm、短軸47~107cm、深さ18~81cm、溝状が長さ305cm、幅44~63cm、深さ42~91cmである。径は15~22cmである。遺物は、かわらけが柱穴P1とP13から出土し、そのうちP13出土のものは2点合わせ口状

第5節 大野田古墳群7区の調査

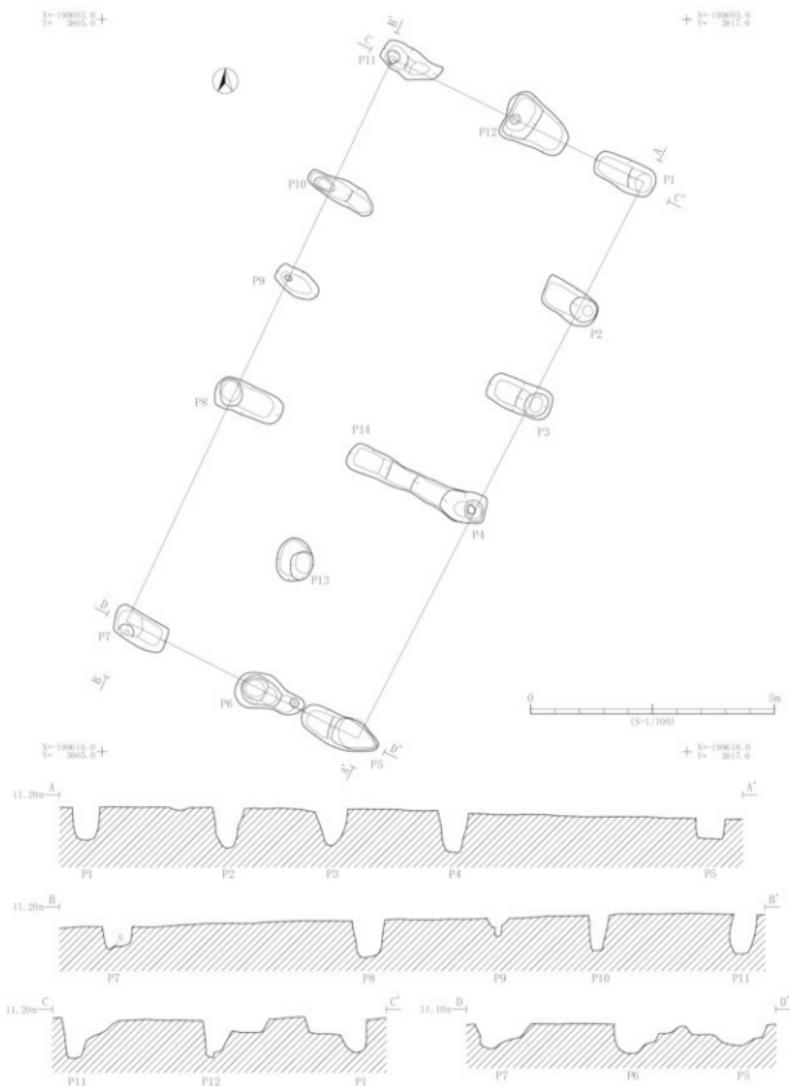


遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SB341 P1	1	10YR5-25K黄褐色	粘土質シルト	鉄化物を含む。	SB341 P3	1	2.5Y5-3黄褐色	粘土	柱跡。
	2	10YR4-25K黄褐色	粘土質シルト	柱跡跡。		2	2.5Y5-3黄褐色	粘土	鉄化鉄・マンガン鉄を含む。
	3	10YR6-25K黄褐色	粘土質シルト	鉄化物を含む。柱跡跡。		3	2.5Y6-4に近い褐色	粘土	鉄化鉄・マンガン鉄を含む。

第25図 SB341掘立柱建物跡平面図・断面図



第26図 SB382掘立柱建物跡出土遺物



第27図 SB382掘立柱建物跡平面図

態で出土した。第26図に図示した。いずれもロクロ成形で、体部が直線的に立ち上がる。1・3の見込み部にはそれぞれ「小麦」、「小豆」と墨書きされている。近世のかわらけと思われる。柱穴の深い部分に埋納されており、地鎮に関わる遺物と考えられる。

4) 土 坑

SK288土坑（第28図、図版5） W10・S190グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸100cm、短軸75cm、深さ20~30cmである。壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK294土坑（第28図、図版5） W0-E0~E10・S190グリッドで検出した。小溝状遺構I-6と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-6°-Wである。規模は長軸185cm、短軸80cm、深さ36cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK296土坑（第28図、図版6） W0-E0・S200グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-65°-Wである。規模は長軸105cm、短軸90cm、深さ13cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK303土坑（第28図、図版6） W0-E0・S200グリッドで検出した。SB341、SK306・341、P4198と重複関係にあり、SK306・341より新しく、P4198より古い。SB341は直接重複関係がなく、新旧は不明であるが、同時併存の可能性がある。平面形はほぼ円形で、規模は径235cm、深さ40cmで、壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は擂鉢状である。また、SK306と接する部分には甕が集積していた。堆積土は3層に分層される。遺物は、陶器類と銭貨、砥石が出土し、そのうち14点を国示した。第31図1~3は肥前產染付磁器で、1は輪剥げ皿で見込みに松葉文が染付されている。2は変形皿で見込みには吹墨により染付がされている。3は蕎麦猪口で、外面に梅樹文が染付されている。4~9は大堀・小野相馬産の施釉陶器碗類である。5は灰釉と鉄釉を流し掛けしている。6~8は灰釉が施釉されている。9は腰錠小腹碗である。10は產地不明の青釉輪剥げ皿、11・第32図1は鉄釉が施釉され、内面全面に描目が施される在地産の擂鉢である。これらの遺物は19世紀前半代の製品である。銭貨は第33図1に国示し、新寛永通宝である。第32図4は楕円形の自然縁を用いた砥石で、使用面は1面で線条痕が観察される。これらの遺物は概ね19世紀前半の製品と考えられる。

SK306土坑（第28図） W0-E0・S200グリッドで検出した。SK303と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、検出した規模は北西-南東方向で120cm、北東-南西方向で80cm、深さ15cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK311土坑（第28図） W0-E0・S210グリッドで検出した。SD313と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸75cm、短軸52cm、深さ17cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形はU字形である。底面の南東側にはピット状の掘り込みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK326土坑（第28図） W0-E0・S200グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸82cm、短軸60cm、深さ11cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK327土坑（第28図） W0-E0・S200グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸155cm、短軸85cm、深さ8cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK331土坑（第29図） W10・S210グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。SD313と重複関係にあり、

本遺構が新しい。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形と思われるが詳細は不明である。検出した規模は北西-南東方向で218cm、北東-南西方向で73cm、深さ18cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸が目立つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK332土坑（第28図） W10・S200グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸124cm、短軸85cm、深さ55~64cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

SK334土坑（第28図） W10・S190グリッドで検出した。SK340・P4186と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-59°-Wである。規模は長軸で62cm、短軸で42cm、深さ18cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK336土坑（第29図） W10・S200グリッドで検出した。平面形は隅丸台形で、長軸方向はN-75°-Wである。規模は長軸72cm、短軸40~70cm、深さ38cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面にはやや凹凸が認められる。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK340土坑（第29図、図版7） W10・S190グリッドで検出した。SK334、SD333、小溝状遺構I-4と重複関係にあり、SD333より古く、他の遺構より新しい。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-43°-Wである。規模は長軸314cm、短軸95cm、深さ28~50cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK341土坑（第28図） W0-E0・S200~210グリッドで検出した。SK303と重複関係にあり、本遺構が古い。SB341とは位置的に重複するが、直接重複関係がないため新旧は不明である。平面形は不整楕円形と思われ、長軸方向はN-60°-Eである。検出した規模は長軸255cm、短軸190cm、深さ17~25cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK345土坑（第29図） E10・S210グリッドで検出した。SR314と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はN-21°-Eである。規模は長軸115cm、短軸55cm、深さ10cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK346土坑（第29図） E10・S210グリッドで検出した。SR314と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径64cm、深さ17cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

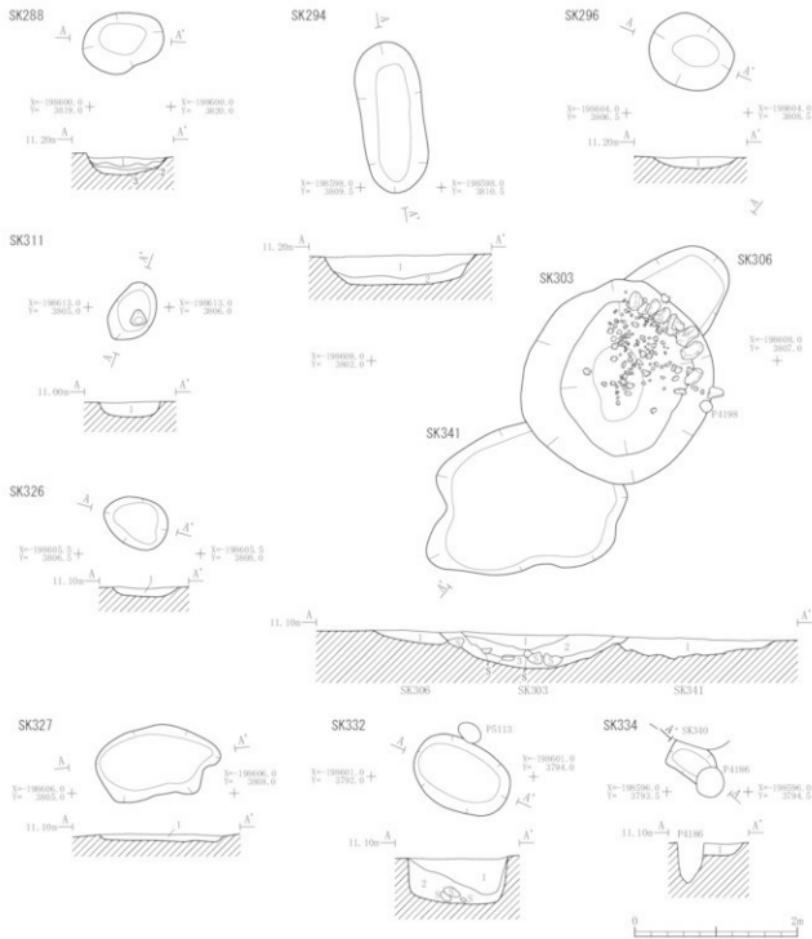
SK361土坑（第29図） W30・S190グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径60cm、深さ23cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器壺が1点出土しており、第32図2に図示した。内外面ともに口縁部ヘラミガキ、体部ヘラナデである。古墳時代前期（4世紀末）の所産と考えられる。

SK363土坑（第29図） W20・S190グリッドで検出した。平面形は不整隅丸長方形で、長軸方向はN-61°-Wである。規模は長軸215cm、短軸115cm、深さ62cmである。壁面は急角度であるが、西壁の上半はなだらかに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

SK367土坑（第29図） W30・S190グリッドで検出した。小溝状遺構I-8、P4245と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-62°-Eである。規模は長軸282cm、短軸107cm、深さ30~40cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面はやや擂鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器壺の底部破片やS字壺の口縁部片が出土し、S字壺は第32図3に図示した。胴部外面に細いハケメが施される。時期は古墳時代前期（4世紀末）の所産と考えられる。

SK373土坑（第30図） W40・S190グリッドで検出し、北西側の調査区外へ延びる。SD371・372と重複関係に

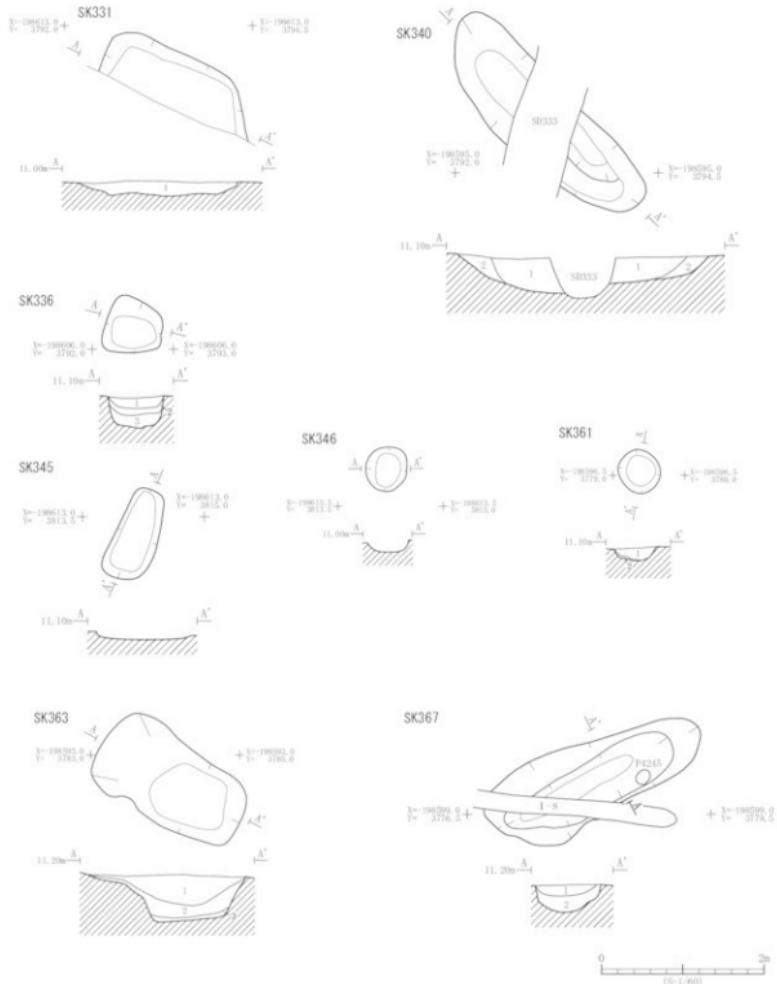
第5節 大野田古墳群7区の調査



遺構	編號	土 色	土 性	備 考
SK288	1	30YR2/20暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒を含む。層下半に褐色シルトを含む。
	2	40YR4/4褐色	シルト	-
	3	40YR4/40褐色	シルト	-
SK294	1	40YR3/20褐色	シルト	(浅い) 黄褐色シルトをブロック状に含む。
	2	40YR2/20褐色	シルト	（ぬい）黄褐色シルトを含む。底面に礫石を含む。
SK296	1	30YR4/20暗褐色	シルト	炭化物・灰化物を含む。小アロマ・小アーチ・複合シルトを含む。
	2	30YR6/20暗褐色	シルト	炭化物・灰化物を含む。底面の礫石を含む。
	3	30YR2/20褐色	粘土質シルト	炭化物を多く含む。底面の礫石を含む。
SK303	1	30YR2/20暗褐色	砂質シルト	灰化物と質シルトを含む。
	2	30YR2/20褐色	シルト	-
	3	30YR2/20褐色	粘土質シルト	炭化物を多く含む。底面の礫石を含む。

遺構	編号	土 色	土 性	備 考
SK306	1	23YR6/20暗褐色	砂土質シルト	炭化物を微量含む。
SK311	1	10YR3/40褐色	粘土	炭化物・礫（φ10mm）・黄褐色シルトブロックを含む。
SK326	1	23YR2/20暗褐色	砂質シルト	炭化物を含む。
SK327	1	23YR2/20暗褐色	砂質シルト	炭化物を含む。
SK330	1	10YR13/35-40褐色	シルト	砂土半に三葉褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK332	2	10YR4/4褐色	粘土	底面に礫を含む。
SK334	1	23YR4/4リード褐色	シルト	-
SK341	1	10YR5/4褐色	粘土	明黄褐色を含む。

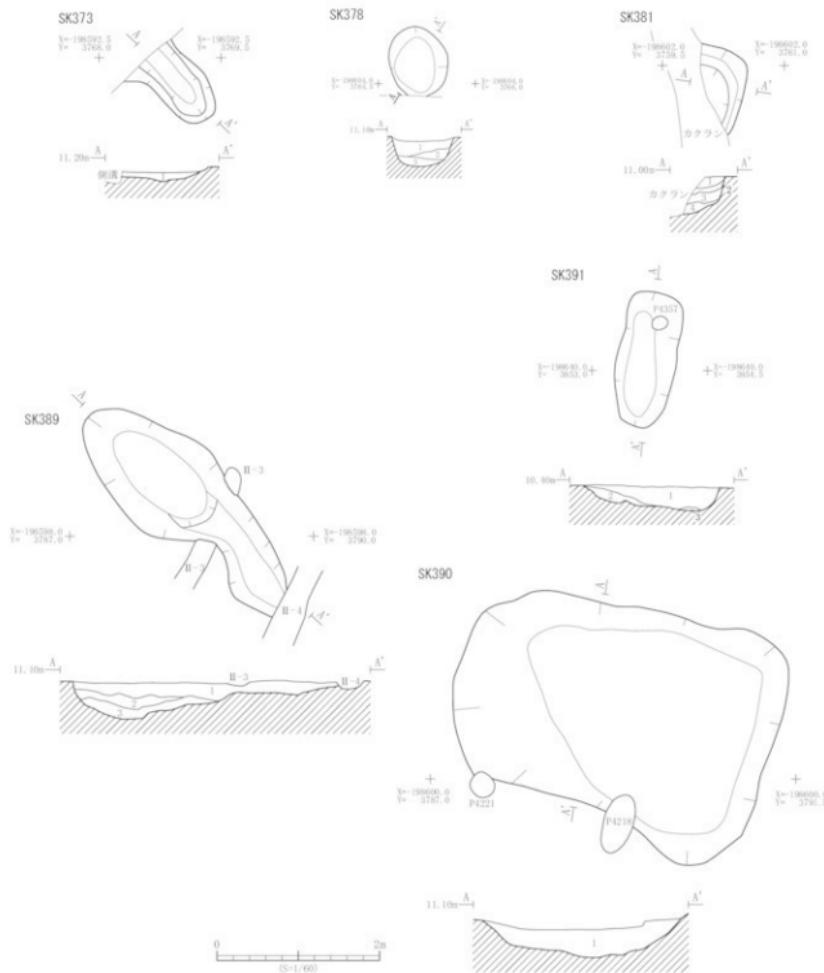
第28図 SK288・294・296・303・306・311・326・327・332・334・341土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK331	1	2.5Y5/2赤褐色	粘土質シルト	酸化鉄・黒褐色シルトブロックを含む。	SK361	1	10YR2.2/0褐色	粘土質シルト	土器片を含む。
	2	2.5Y4.6/7-9深褐色	シルト	-		2	10YR3.4/0褐色	砂質シルト	-
SK336	1	10YR4.6/7-9深褐色	シルト	オリーブ褐色シルトをブロック状に含む。	SK363	1	10YR4.4/0褐色	シルト	東側に炭化物粒をわずかに含む。
	2	2.5Y4.4/7-9深褐色	シルト	-		2	10YR4.4/0褐色	シルト	暗褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK340	1	10YR3.3/0褐色	粘土質シルト	-		3	10YR3.3/0褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3.4/0褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	SK367	1	10YR3.2/0褐色	粘土	-
SK345	1	10YR6.3/0+5.0	褐色	-		2	10YR3.3/0褐色	粘土	-
SK346	1	10YR6.3/0+5.0	褐色	-					
SK361	1	10YR6.3/0+5.0	褐色	-					
SK363	1	10YR6.3/0+5.0	褐色	-					
SK367	1	10YR6.3/0+5.0	褐色	-					

第29図 SK331・336・340・345・346・361・363・367土坑平面図・断面図

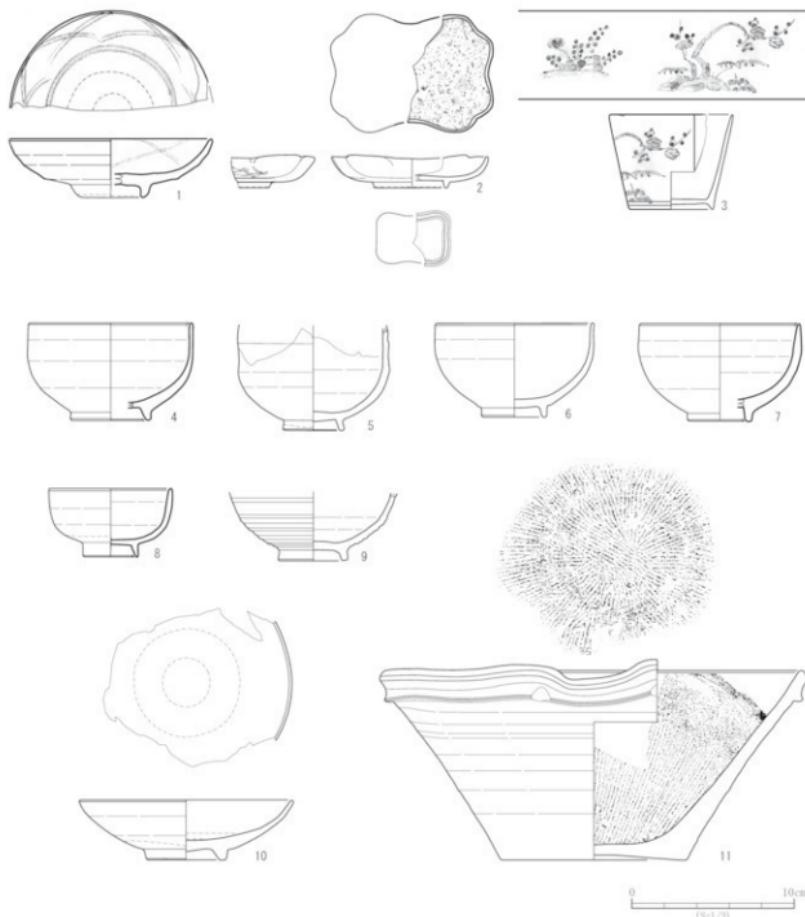
第5節 大野田古墳群7区の調査



遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SK373	1	10YR4/4褐色	シルト	黒褐色粘土を含む。
	1	10YR4/3-1深褐色	シルト	鉄青? を含む。
SK378	2	10YR4/4褐色	シルト	鐵青? を含む。
	3	10YR3/3褐色	粘土	骨灰を含む。
SK381	1	23YR4/4褐色	シルト	骨? をわずかに含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	-
	3	2.5Y5/3黄褐色	粘土質シルト	-
	4	10Y5/4-5深褐色	砂質シルト	-

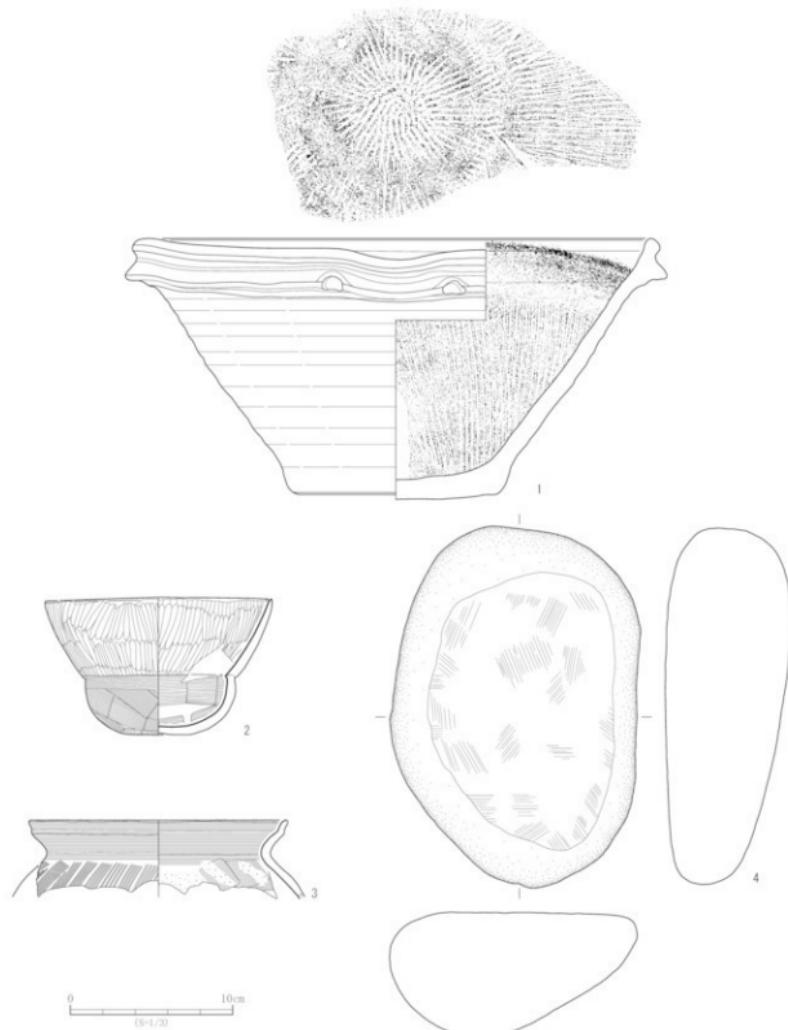
遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SK389	1	10YR4/4褐色	粘土	黒化鉄を含む。
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒化鉄を含む。
	3	10YR5/1褐色	粘土質シルト	黒化鉄を含む。
SK390	1	10YR3/3褐色	粘土質シルト	上方に黒化鉄に埋まれた褐色粘土を含む。
	+	10YR3/4褐色	粘土	中～下層に黒化鉄に埋まれた褐色粘土プロックを含む。
SK391	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	鉄青?
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	-
	3	10YR3/3褐色	粘土	根被瓦?

第30図 SK373・378・381・389～391土坑平面図・断面図



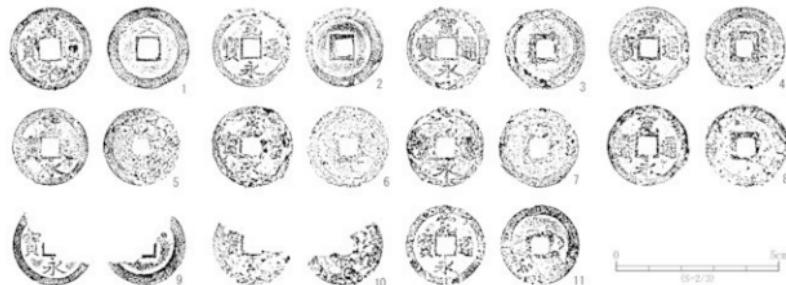
No.	登錄番号	出土遺物	層位	種類別	器種	口径×底径×高さ(cm)	特徴	面地	時期	写真回数
1	J-1	SK303	-	磁器	半切輪鉢	(12.6) × 4.3 × 3.6	口下口付、足込み・松葉文・二重輪	肥沃	19世紀前半	17-1
2	J-2	SK303	4	磁器	斜切輪小鉢	(8.2) × 3.8 × (3.2) × 0.5	口付、足込み・堅紙絵染め付	肥沃	19世紀前半	17-2
3	J-3	SK303	2	磁器	斜切輪丸鉢	7.5 × 5.2 × 5.8	口付、外縁・斜切卓花文	肥沃	19世紀前半	17-3
4	I-1	SK303	3	施釉陶器	碗	10.0 × 4.8 × 6.0	口付、内外面・灰釉	大屋根馬	19世紀前半	17-4
5	I-2	SK303	-	施釉陶器	碗	> 3.8 × 8.6 × 3	口付、内外面・灰釉	大屋根馬	19世紀前半	17-5
6	I-3	SK303	3	施釉陶器	碗	10.0 × 3.8 × 5.8	口付、内外面・灰釉	大屋根馬	19世紀前半	17-6
7	I-4	SK303	2	施釉陶器	碗	9.8 × 4.0 × 5.8	口付、内外面・灰釉	小舟馬	19世紀前半	-
8	I-5	SK303	3	施釉陶器	小碗	7.6 × 3.4 × 4.2	口付、内外面・灰釉	小舟馬	19世紀前半	17-7
9	I-6	SK303	3	施釉陶器	照込小鉢	> 4.2 × 8.4 × 2	口付、照込	小舟馬	19世紀前半	17-8
10	I-7	SK303	3	陶器	半切輪小鉢	(13.0) × 4.8 × 3.7	口付、足込み・青釉・輪酒付	赤地	19世紀前半	17-9
11	I-8	SK303	2	施釉陶器	搖鉢	26.4 × 11.4 × 12.3	口付、内外面・灰釉・全面模様・底部斜面削り	19世紀前半	17-10	

第31図 土坑出土遺物（1）



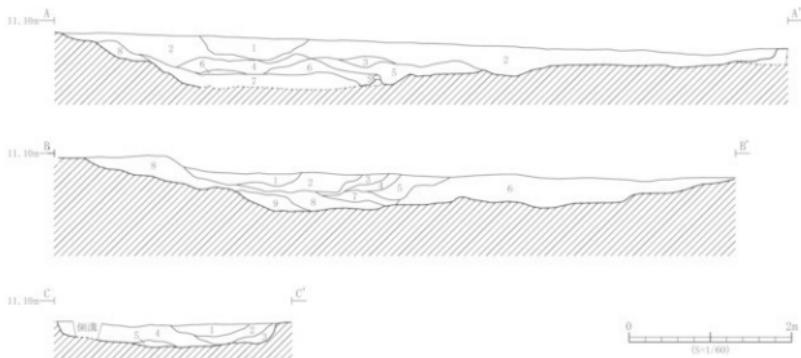
No.	登録番号	出土遺物	層	分	種	別	器	径×幅×深さ×器高(cm)	鉢	筒	地	時間	写真図版			
1	1-9	SK303	-	2	輪動陶器	輪跡	口沿	121.0×122.0×11.0	口クロ	底輪	内面	鉢輪全面切削	成形時軸系切削	在地	19世紀前半	17-11
2	C-12	SK361	1	-	手彫器	縦	13.9×4.0×8.4	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラナデ	ヘラミガキ	ヘラナデ	ナメ				17-15	
3	C-13	SK367	-	-	手彫器	縦	16.0×4.4×8.8	ヨコナデ・ハナメ	ヨコナデ	ヘラナデ				17-14		
No.	登録番号	出土遺物	層	分	種	別	器	径×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	鉢	筒	地	時間	写真図版		
4	1d-a-2	SK303	-	-	環石器	石	宝山岩	22.2×15.5×8.0	3,800.0	無1+0.				17-12		

第32図 土坑出土遺物（2）



No.	登錄番号	出土場所	層位	種類	銘名	径×外徑×厚さ(cm)	備考	写真版
1	N-1	SK303	3	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.1	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781) 天保	E-13
2	N-2	SK378	-	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.1	古寛永通宝(1636~1659)	E-16
3	N-3	SK378	-	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.1	古寛永通宝(1636~1659)	E-17
4	N-4	SK378	-	圓貢	寛永通宝	24.0×26.0×0.1	古寛永通宝(1636~1659)	E-18
5	N-5	SK378	-	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.1	古寛永通宝(1636~1659)	E-19
6	N-6	SK378	2	圓貢	寛永通宝	25.0×27.0×0.1	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781)	E-20
7	N-7	SK378	2	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.1	寛永通宝ではあるが、鋳造年不明	E-21
8	N-8	SK381	-	圓貢	寛永通宝	23.0×26.0×0.5	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781) 3枚重ね	E-22
9	N-9	SK381	-	圓貢	寛永通宝	(25.0)×26.0×0.1	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781)	E-23
10	N-10	SK381	-	圓貢	寛永通宝	(25.0)×26.0×0.1	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781)	E-24
11	N-11	SK381	-	圓貢	寛永通宝	24.0×26.0×0.1	新寛永通宝(1607~1747・1767~1781)	E-25

第33図 土坑出土銭貨



第34図 SR314河川断面図

遺構	層位	土色	土性	備考
SR314 (A-A')	1 30YR4.4 黄褐色	細砂	酸化鉄・灰褐色細砂ブロックを含む。	
	2 30YR5.2灰黃褐色	細砂	酸化鉄を含む。	
	3 25YR5.3-5.4灰褐色	細砂	-	
	4 7.5YR5.2灰褐色	粗砂	灰褐色細砂ブロック・酸化鉄を含む。	
	5 10YR5.2灰黃褐色	粗砂	酸化鉄を含む。	
	6 10YR7.1灰白色	粗砂	火山灰・雜合土。	
	7 2.5YR6.2灰褐色	粗砂	細風化土と黄褐色粘土を含む。酸化鉄・遺物を含む。	
	8 2.5YR6.4灰褐色	粗砂	-	
SR314 (B-B')	1 30YR4.4 黄褐色	粗砂	酸化鉄・灰褐色細砂ブロックを含む。	4 2.5YR3.1灰褐色 細砂 酸化鉄を含む。
	2 25YR7.2灰褐色	粗砂	酸化鉄を含む。	5 10YR5.2灰黃褐色 細砂 酸化鉄を含む。
	3 25Y7.3灰褐色	細砂	酸化鉄を含む。	6 10YR5.2灰褐色 細砂 酸化鉄を含む。
SR314 (C-C')	1 30YR4.4 黄褐色	粗砂	酸化鉄・灰褐色細砂ブロックを含む。	7 10YR6.2灰褐色 細砂 酸化鉄を含む。
	2 25Y7.2灰褐色	粗砂	酸化鉄を含む。	8 2.5YR6.2灰褐色 粗砂 酸化鉄と黄褐色粘土を含む。酸化鉄・遺物を含む。
	3 25Y7.3灰褐色	細砂	酸化鉄を含む。	9 7.5YR3.4灰褐色 細砂 -
	4 10YR4.2灰褐色	粗砂	-	1 10YR3.3灰褐色 粗砂 動性なし。締まりあり。
	5 10YR4.4灰褐色	粗砂	-	2 10YR3.3灰褐色 粘質シルト 動性ややあり。締まりあり。
	6 10YR4.2灰褐色	粗砂	-	3 10YR4.2灰褐色 粘質シルト 動性ややあり。締まりあり。
	7 10YR4.4灰褐色	粗砂	-	4 10YR4.2灰褐色 粘質シルト 動性ややあり。締まりあり。
	8 10YR4.4灰褐色	粗砂	-	5 10YR4.4灰褐色 粗砂 動性なし。締まりあり。層底面は粗粒。

あり、本遺構が新しい。平面形は梢円形と思われ、長軸方向はN-42°-Wである。現存長は長軸方向で105cm、短軸は78cm、深さ6~13cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は、古寛永通宝の破片が1枚出土した。

SK378土坑（第30図、図版6） W40・S200グリッドで検出した。平面形は梢円形で、規模は長軸108cm、短軸90cm、深さ46cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は、錢貨が6枚出土し、第33図2~7に図示した。いずれも寛永通宝であり、2~5が古寛永通宝、6は新寛永通宝で、7は新・古は不明である。出土錢貨の枚数から、本土坑は六道錢を作う墓壙の可能性がある。

SK381土坑（第30図） W40・S200グリッドで検出した。西側の搅乱で平面形は不明である。検出した規模は南北115cm、東西60cm、深さは最深部で47cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は西側に傾斜している。堆積土は4層に分層される。遺物は、錢貨が6枚出土し、第33図8~11に図示した。8は3枚が癒着している。癒着して錢名が判読不可能な錢貨以外は新寛永通宝である。SK378土坑と同様に、六道錢を作う墓壙の可能性がある。

SK389土坑（第30図） W20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構II-3・4、P4235・4265と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整梢円形で、長軸方向はN-44°-Wである。規模は長軸方向で335cm、短軸は56~130cm、深さは最深部で45cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がるが、北西側の底面が低く段になっている。断面形はU字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK390土坑（第30図） W10~20・S190~200グリッドで検出した。小溝状遺構II-4、P4214~4216・4218・4221・5111と重複関係にあり、小溝状遺構II-4より新しく、他の遺構より古い。平面形は不整な扇丸長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。規模は長軸395cm、短軸240~300cm、深さ48~52cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸が認められる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK391土坑（第30図） E50・S230~240グリッドで検出した。P4357と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-7°-Eである。規模は長軸175cm、短軸80cm、深さ18~33cmである。壁面は西壁側では急角度であるが、北東壁側ではなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面には凹凸が認められる。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

4) 河川跡

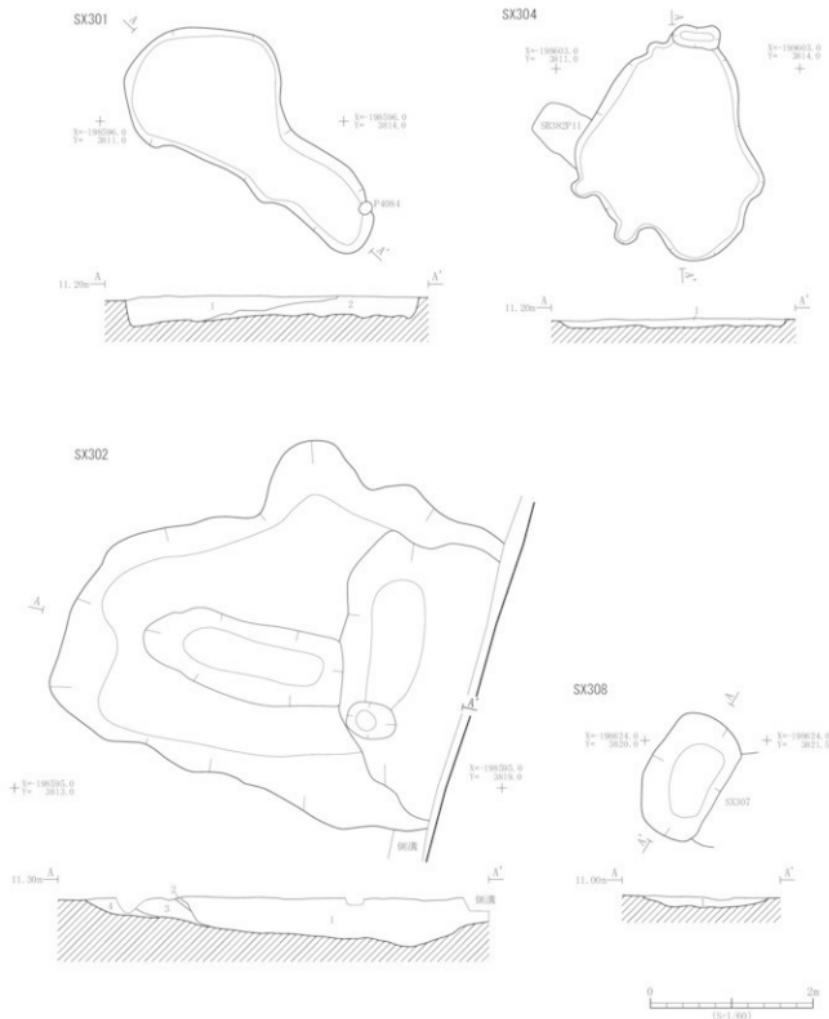
SR314河川跡（第13・34図） W10~E20・S210~220グリッドで検出した。河川跡の方向はN-88°-Eで、SB382、SK345・346、P4133・4134・4138・4139・4141・4142・4189~4192・4205・4220・5105・5107と重複関係にあり、本遺構が古い。トレンチを3ヶ所設定し調査を行った。検出した規模は長さ2450m、幅は2.30~9.70mで、深さ60cmまで調査をした。堆積土は9層に分層される。遺物は、内面黒色処理された土師器坏の小片が出土した。

5) 性格不明遺構

SX301性格不明遺構（第35図） E10・S190グリッドで検出した。28号墳、小溝状遺構I-5、P4084と重複し、P4084より古く、他の遺構より新しい。平面形は不整形で、長軸方向はN-51°-Wである。規模は長軸362cm、短軸85~190cm、深さ23~34cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸が認められる。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SX302性格不明遺構（第35図、図版6） E10・S200グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。小溝状遺構I-11と重複関係にあるが、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向は概ねN-84°-Wである。規模は長軸方向で505cm、短軸は255~475cm、深さ15~57cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は概ね逆台形で、底面は東側に傾斜している。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SX304性格不明遺構（第35図） E10・S200グリッドで検出した。SB382と重複関係にあり、本遺構が古い。平



第35図 SX301・302・304・308性格不明構造平面図・断面図

遺構	層位	主色	主性	備考	遺構	層位	主色	主性	備考
SX301	1	25Y4/2リーフ緑色	粘土質シルト	酸化鉄を多く含む。	SX302	3	25Y6/3-5灰青色	シルト	酸化鉄を含む。
	2	25Y5/4黄褐色	シルト	酸化鉄を多く含む。		4	25Y5/2暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を含む。
SX302	1	25Y5/3黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。	SX304	1	25Y5/2暗灰黄色	シルト	礫を大量、酸化鉄を多く含む。
	2	30Y4/4-2暗褐色	砂	-		2	25Y4/6リーフ緑色	シルト	暗褐色粘土質シルト小プロックを多く含む。
SX304	1	25Y4/2リーフ緑色	シルト	-	SX308	1	25Y4/6リーフ緑色	シルト	-
	2	30Y4/4-2暗褐色	砂	-		2	25Y4/6リーフ緑色	シルト	-

面形は不整形で、長軸方向はN-8°-Wである。規模は長軸290cm、短軸230cm、深さ10cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦であるが、凹凸が若干認められる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX305性格不明遺構（第36図） W0-E0～E10・S190～200グリッドで検出した。小溝状遺構 I-7と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はN-25°-Eである。規模は長軸380cm、短軸70～255cm、深さ12～28cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は北側が南側より若干低くなっている。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SX307性格不明遺構（第36図） E20・S220グリッドで検出した。SX308と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-82°-Wである。規模は長軸238cm、短軸190cm、深さ5～28cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦であるが、東側にはピット状の窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SX308性格不明遺構（第35図） E20・S220グリッドで検出した。SX307と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形と思われ、長軸方向はN-28°-Eである。規模は長軸155cm、短軸95cm、深さ12cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX309性格不明遺構（第36図、図版6） E20・S220グリッドで検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-27°-Eである。規模は長軸150cm、短軸125cm、深さ12～17cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX310性格不明遺構（第36図） E20・S220グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向はN-36°-Eである。規模は長軸162cm、短軸120cm、深さ12cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX351性格不明遺構（第36図） E10～20・S180グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。平面形は梢円形と思われ、規模は東西275cm、南北210cm、深さ85cmで、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SX365性格不明遺構（第36図、図版6） W20・S190グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-88°-Eである。規模は長軸290cm、短軸265cm、深さ72cmで、断面形はU字形である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

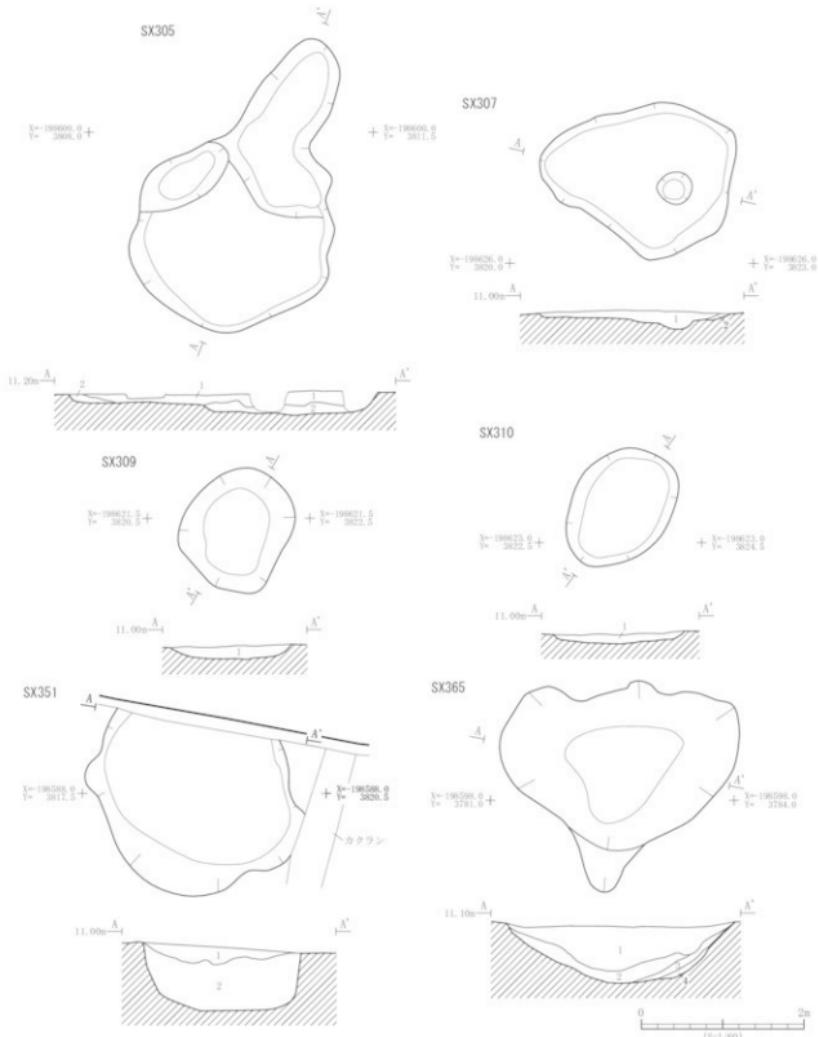
6) 溝跡

SD295溝跡（第14・37図） W0-E0・S190グリッドで検出した。主軸方向はN-85°-Eの東西方向の溝である。規模は長さ1.60m、幅45cm、深さ18cmで、断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD313溝跡（第13・37図） 9B区V層で検出したSD509と同一の遺構であることから、併せて記述する。7区のW0-E0～W10・S200～210、9B区のE20・S210グリッドで検出した。7区でSB341・382、SD316、SK311・331、P4131・4132・4143・4206・4207、9B区でSK507と重複関係にあり、本遺構が古い。主軸方向はN-85°-Eの東西方向の溝で、やや蛇行している。規模は検出長33.50m、幅95～270cm、深さ5～31cmである。断面形は概ねU字形で、段差があり、堆積土は3層に分層される。遺物は、籠の羽口や黒色処理された土師器壺や高台付壺が出土しており、そのうち1点を第38図2に図示した。高台付壺の高台部片で、底部には糸切り痕が残る。

SD316溝跡（第13・37図） E10～20・S200～210グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、調査範囲では半円形である。SD313と重複関係にあり、本遺構が新しい。規模は長さ約450m、幅65～95cm、深さ9～40cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は、土師器小片が出土した。

SD330溝跡（第13・37図） W10・S200グリッドで検出した。主軸は方向はN-42°-Wの北西～南東方向の溝で、



遺構	層位	オイ	オイ性	備考
SX305	1	25YS-4(海褐色)	シート	酸化鉄分多量、裡(約100cm)を含む。
	2	23D-3E(+/-80cm)	粗砂	酸化鉄分を少量、裡を大量に含む。
SX307	1	25YT-2/3(黄褐色)	砂質シート	全体的に酸化鉄分を含む。
	2	23YT-4(黄褐色)	粘土質シート	粘土質粘土を含む。
SX309	1	75YR4-2/8(褐色)	砂質シート	シート状・酸化鉄分を含む。底オリーブ色シートを底と共に含む。
SX310	1	75YR4-2/8(褐色)	粘土質シート	酸化鉄分を含む。底面は暗褐色粘土。

遺構	層位	オイ	オイ性	備考
SX351	1	23YT4-6(オリーブ褐色)	シート	酸化鉄分を多く含む。
	2	23YT4-6(オリーブ褐色)	シート	酸化鉄分を多く含む。底平下に砂を含む。
SX365	1	10YR4-4E(+/-80cm)	粘土質シート	粘土質シート。
	2	10YR4-4C(+/-80cm)	粘土質シート	粘土質シート。
SX365	3	10YR4-4C(+/-80cm)	粘土質シート	粘土質シートブロックを含む。
	4	10YR4-3C(+/-80cm)	砂質シート	-

第36図 SX305・307・309・310・351・365性格不明遺構平面図・断面図

規模は長さ4.60m、幅60~125cm、深さ10~22cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

SD333溝跡（第13・37図） W10~20・S180~210グリッドで検出した。SK340、SD339、小溝状遺構I-4・12と重複し、本遺構が新しい。主軸方向はN-13°-Eの南北方向の溝である。溝の両端部は調査区外に延びる。検出長は23.70m、幅は55~100cm、深さは最深部で42cmである。断面形はU字形で、堆積土は3層に分層される。遺物は、近世の肥前産磁器、施釉陶器類が出土し、2点を第38図3・4に図示した。3は肥前産染付磁器小碗で外面に紅葉文が染付される。4は在地産の擂鉢である。内外面に鉄袖が施され、擂目は内面全面に巡る。いずれも19世紀前半の製品と思われる。

SD339溝跡（第13・37図、図版6・7） 9B区V層で検出したSD477と同一の遺構であることから、併せて記述する。7区のW30~E20・S180~190、9B区のE20~30・S190グリッドで検出し、7区で28号墳、SD333・356・358、P4320・4322・4323・4338~4341・4353、9B区でSK478、P5031・5092と重複関係にあり、28号墳、P4320・4322・5031より新しく、他の遺構より古い。主軸方向はN-80°-Wの東西溝である。溝の両端は調査区外へ延びる。検出長は67.60m、幅は170~240cm、深さは最深部で55cmである。断面形は幅広のU字形で、堆積土は4層に分層される。遺物は、埴輪片、土師器环・甕の小片が出土した。

SD356溝跡（第13・37図） W20・S180~200グリッドで検出した。SD339、小溝状遺構I-12、P4238・4253・4261・4262と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-13°-Eの南北溝である。溝の両端は調査区外へ延びる。検出長は23.50m、幅は48~82cm、深さは16~30cmである。断面形は逆台形で、堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD358溝跡（第13・37図） W20・S180グリッドで検出した。SD339と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側の調査区外へ延びる。主軸方向はN-3°-Eの南北溝である。規模は現存長で1.65m、幅は40~80cm、深さは25~35cmである。断面形は逆台形であるが、部分的に段差をもつ。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD370溝跡（第13・37図） W40~60・S190~200グリッドで検出し、S1380と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-50°-Eの北東-南西方向の溝である。溝の両端は調査区外へ延びる。検出規模は現存長で19.80m、幅は60~295cm、深さは最深部で45cmである。断面形はU字形である。遺物は、土師器环が1点出土し、第38図1に図示した。半球状の器形で、口縁部を欠損している。体部に穿孔されている。

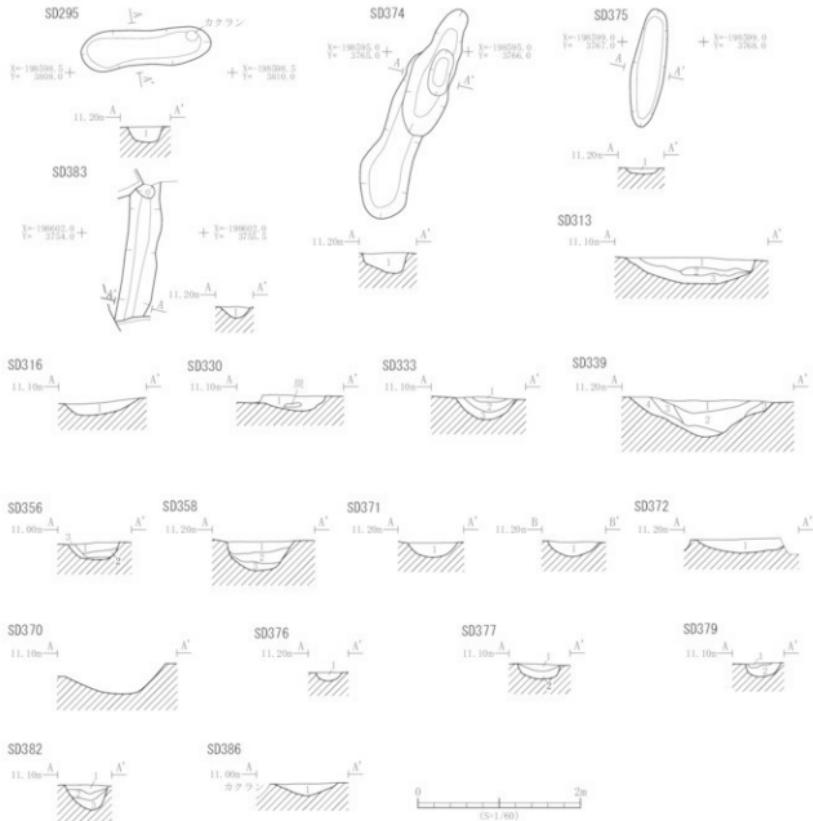
SD371溝跡（第13・37図） W30~40・S190グリッドで検出した。S1380、SK373、SD370・372・374・377と重複関係にあり、S1380よりも新しく、他の遺構より古い。北東-南西方向の溝で、主軸方向はN-60°-Eである。溝の北東端は失われている。検出した規模は長さ約15.7m、幅55~75cm、深さ12~18cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD372溝跡（第13・37図） W30~40・S190グリッドで検出した。SK373、SD371と重複関係にあり、SD371より新しく、SK373より古い。主軸方向はN-64°-Eの北東-南西方向の溝である。検出した規模は長さ820m、幅70~115cm、深さは最深部で28cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。遺物は土師器及び須恵器の小片が出土した。

SD374溝跡（第37図） W40・S190グリッドで検出した。SD371と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-21°-Eの南北溝である。規模は長さ2.75m、幅35~70cm、深さは最深部で34cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD375溝跡（第37図） W40・S190グリッドで検出し、主軸方向はN-8°-Eの南北溝である。規模は長さ1.45m、幅40cm、深さ7cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD376溝跡（第13・37図、図版6） W40・S200グリッドで検出した。北側はSD377と接続し、クランク状に連なる。主軸方向はN-12°-Wの南北溝で、南側の調査区外へ延びる。検出した規模は長さ2.15m、幅30~40cm、



遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SD295	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-	SD356	1	H0YR4-2B 黄褐色	砂質シルト	板状に酸化鉄を含む。
	2	H0YR2-3赤褐色	シルト	黄褐色シルトかブロック・灰褐色シルト小ブロック・ に灰褐色色と少々小ブロックを含む。	SD358	2	H0YR4-1暗灰褐色	シルト	底部に板状の酸化鉄層がある。
SD313	1	H0YR4-1暗灰褐色	粘土質シルト	粘化鉄を含む。		3	H0YR4-4褐色	砂	-
	2	H0YR5-1褐色	粗砂	上方に酸化鉄を層状に含む。	SD371	1	H0YR4-3C-3D 黄褐色	シルト	灰褐色色シルトブロックと酸化鉄を含む。頭部に砂層を含む。
SD316	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	粘化鉄を含む。	SD372	1	H0YR3-2B 黄褐色	シルト	に灰褐色色シルトブロックと酸化鉄を含む。 層下半に砂層を軽く含む。
	2	H0YR5-1褐色	粘土質シルト	粘化鉄を含む。	SD374	1	H0YR2-2B 黄褐色	粘土	褐色ブロックを含む。
SD330	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-	SD375	1	H0YR5-2B 黄褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	粗砂	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD333	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-	SD376	1	H0YR4-3C-3D 黄褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	粘土質シルト	粘化鉄を含む。		2	H0YR4-4褐色	シルト	-
SD339	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-	SD377	1	H0YR3-4褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	粘土質シルト	粘化鉄を含む。	SD379	1	H0YR4-3C-3D 黄褐色	シルト	-
SD356	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-		2	H0YR4-4褐色	シルト	-
	2	H0YR2-3赤褐色	シルト	-	SD380	1	H0YR3-4褐色	シルト	細まりなし。
SD358	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-		2	H0YR3-4褐色	粘土質シルト	-
	2	H0YR4-1暗灰褐色	シルト	-	SD381	1	H0YR3-4褐色	シルト	細まりなし。
SD371	1	H0YR4-1暗灰褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-	SD382	1	H0YR3-4褐色	シルト	-
SD372	1	H0YR3-2B 黄褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-	SD383	1	H0YR3-4褐色	シルト	-
SD374	1	H0YR3-4赤褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-	SD384	1	H0YR3-4褐色	シルト	-
SD375	1	H0YR5-2B 黄褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR6-2褐色	シルト	-	SD385	1	H0YR3-4褐色	シルト	-
SD376	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-	SD386	1	H0YR5-2B 黄褐色	粘土	酸化鉄分・砂ブロックを多く含む。
SD377	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		2	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		3	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD379	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		4	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		5	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD380	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		6	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		7	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD381	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		8	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		9	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD382	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		10	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		11	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD383	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		12	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		13	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD384	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		14	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		15	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD385	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		16	H0YR4-3褐色	シルト	-
	2	H0YR5-1褐色	シルト	-		17	H0YR4-3褐色	シルト	-
SD386	1	H0YR3-4褐色	シルト	-		18	H0YR4-3褐色	シルト	-

第37図 SD295・313・316・330・333・339・356・358・370～372・374～377・379・382・383・386溝路平面図・断面図

深さ10~20cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

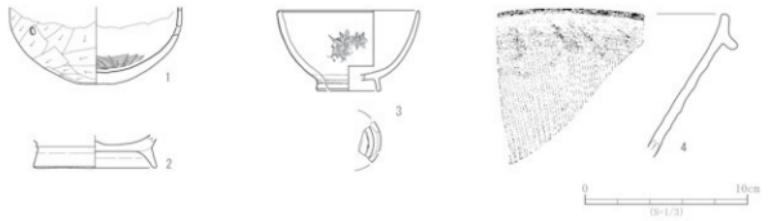
SD377溝跡（第13・37図、図版6） W40・S190~200グリッドで検出した。東側でSD376と接続し、クランク状を呈する。SI380、SD371・379と重複関係にあり、本遺構が新しい。溝はL字形で、主軸方向は南北軸がN-9°-E、東西軸がN-78°-Wである。検出長は11.60m、幅35~60cm、深さ15~27cmである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD379溝跡（第13・37図、図版6） W40・S190~200グリッドで検出した。SD377と重複関係にあり、本遺構が古い。南北方向の溝で、主軸方向はN-8°-Eである。南側の調査区外へ延びる。検出長は6.55m、幅30~55cm、深さ5~17cmである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD382溝跡（第13・37図） W50・S200グリッドで検出した。北側は擾乱で削平され、南側の調査区外へ延びる。主軸方向はN-8°-Wの南北溝である。検出長は3.55m、幅35~70cm、深さ32~36cmである。断面形はU字形で、堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD383溝跡（第37図） W50・S200グリッドで検出した。主軸方向はN-8°-Eの南北方向の溝である。南側の調査区外へ延びる。検出長は1.75m、幅40cm、深さ12cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD386溝跡（第13-37図、図版7） 9B区V層で検出したSD480と同一の遺構であることから、併せて記述する。7区のW0-E0~E20・S180~190、9B区のE20~30・S190グリッドで検出した。7区で28号墳、9B区で28号墳、SK478、SD513、小溝状遺構I-2・3、II-3・6と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-76°-Wの東西溝で、溝の両端は調査区外へ延びる。検出長は25.10m、幅30~95cm、深さは最深部で21cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。



No.	登録番号	出土遺構	層 位	種 別	器 形	口径×底径×器高(cm)	外側調整	内側調整	備 考	写真図版
1	C-14	SD370	-	手掘器	环?	-×22×現47	ヘラケズリ	ヘラナデ	穿孔あり。	18-4
2	D-4	SD313	-	手掘器	高台付环	×76×82×05	ロクロナデ	底部回転系切り	ロクロナデ	18-1
3	J-4	SD333	V	縦器	柴竹小瓶	(8.8)×(4.0)×4.9	ロクロ	外側:紅葉文、高台編 内側:縦溝	施肥	19世紀前半 18-2
4	I-10	SD333	V	縦扁陶器	縫隙	-×-×88.7	ロクロ	内側:紅葉、縫目草?	在施	19世紀前半 18-3

第38図 SD313・333・370溝跡出土遺物

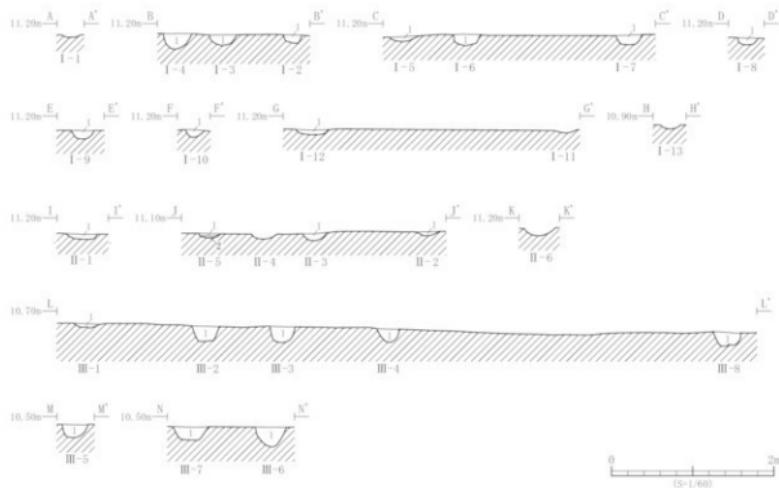
7) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からI~III群に分けられる。I群は東西方向、II・III群は南北方向の溝の一群である。

I群（第13・39図） W40~E20・S180~220グリッドで検出し、13条の小溝で構成されている。方向はN-78~89°-Wのものと、N-88°-Eのものがある。検出長は1.15~38.90m、幅20~55cm、深さ2~25cmである。小溝の間隔は最小0.25mから最大18.20mと幅があり、全体に散漫な分布状況である。堆積土は暗褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

II群（第13・39図） W10~20・S190~210グリッドで検出し、6条の小溝で構成されている。方向はN11°~22°-Eで、検出長は0.80~11.25m、幅20~40cm、深さ2~14cmである。小溝の間隔は最小0.30mから最大3.20mであり、全体的に散漫な分布状況である。堆積土はにぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

III群（第13・39図） E40・S240グリッドで検出し、8条の小溝で構成される。方向はN-1°~11°-Eと、N-2°~4°-Wに分かれる。検出長は1.10~3.75m、幅25~50cm、深さ7~27cm、小溝の間隔は0.60~1.10mである。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。



第39図 小溝状遺構群断面図

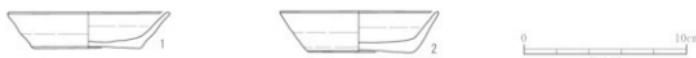
8) ピット（第13図）

325基のピット（P4070・4081~4084・4086・4087・4489~4107・4109~4113・4115~4134・4136~4141・4143~4200・4202~4216・4220~4316・4318~4346・4348~4388）が検出され、調査区全域に分布している。遺物は、土師器や近世のかわらけが出土している。そのうちP4189から出土したかわらけ2点を第40図に図示した。いずれもロクロ成形で、体部が直線的に立ち上がる。

No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	寸法	参考	遺構	層位	土色	土性	備考
1-2-7	1	30YR3-408褐色	シルト	-				1-14	1	10YR3-308褐色	粘土	-
I-8	1	30YR3-406褐色	シルト	-				II-3-5	1	10YR4-30-45-5-6褐色	シルト	-
I-9	1	30YR3-406褐色	シルト	-				II-5	2	10YR4-30-45-5-6褐色	シルト	黒褐色粘土プロックを含む。
I-10	1	30YR4-32-45-6褐色	シルト	-				III-1-8	1	10YR3-30褐色~10YR4-30-45-6褐色	粘土	-
I-12	1	30YR4-32-45-6褐色	砂	底に砂を含む。								

第40図 ピット出土遺物

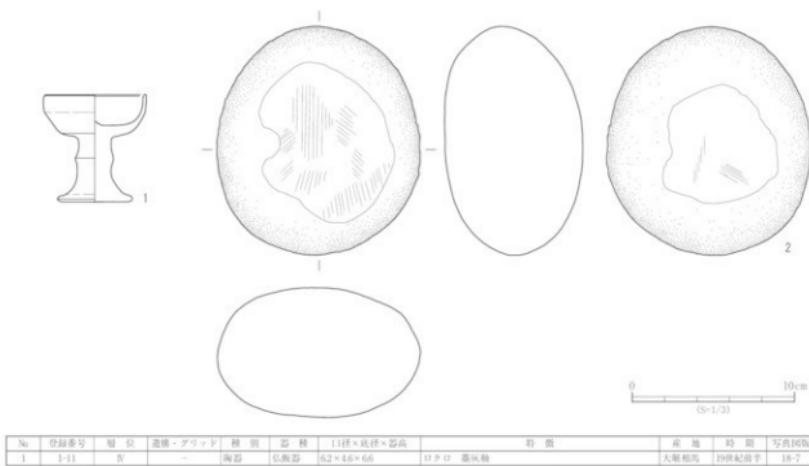
No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	寸法	参考	発見場所	発見地	時期	写真図版
1	D-5	P4189	-	土器	かわらけ	1.0径×底径×高さ(cm)	ロクロ 底部斜削き切妻 扇平-浅黄色	在地	近畿	18-5	
2	D-6	P4189	-	土器	かわらけ	0.7×6.6×2.2	ロクロ 底部斜削き切妻 扇平-浅黄色	在地	近畿	18-6	



第40図 ピット出土遺物

(2) 遺構外出土の遺物 (第41図、図版18)

7区の遺構外出土遺物はごくわずかで、土師器片や近世陶器、それに縄文時代の石器が1点出土したのみである。第41図1は大堀相馬産の仏飯器で、外面に淡い青紫色の薙灰釉が施釉されている。19世紀前半の製品である。2は磨石である。やや扁平な礫の表裏両面に研磨痕が認められた。



第41図 遺構外出土遺物

7. 8A区の調査

8A区では基本層Ⅲ層上面（古代～近世の遺構検出面）、IV層上面（古代の遺構検出面）、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において遺構を確認・調査し、Ⅲ層上面ではピット列18列、溝跡1条、小溝状遺構群3群、ピット36基、IV層上面では溝跡5条、ピット列17列、ピット65基、V層上面では古墳1基、土坑7基、溝跡3条、小溝状遺構群4群、ピット347基を検出した。ピットは建物等の組み合わせ検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物 (第42・43図、図版7)

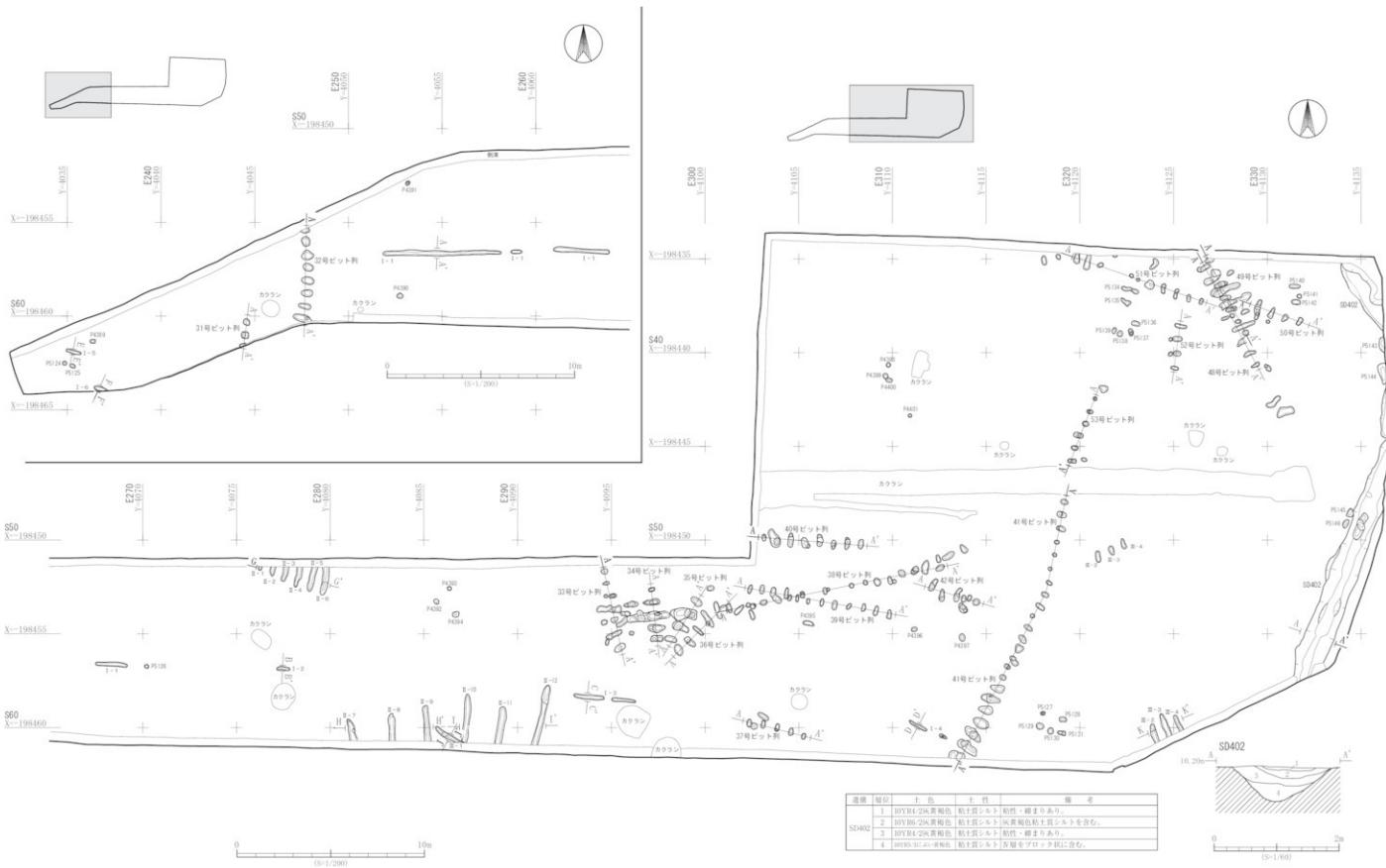
1) ピット列

調査区全域で17列を検出した。小溝状遺構の痕跡とも考えられるが、平面形が梢円形及び溝状のものが列状に並ぶ遺構をピット列とした。

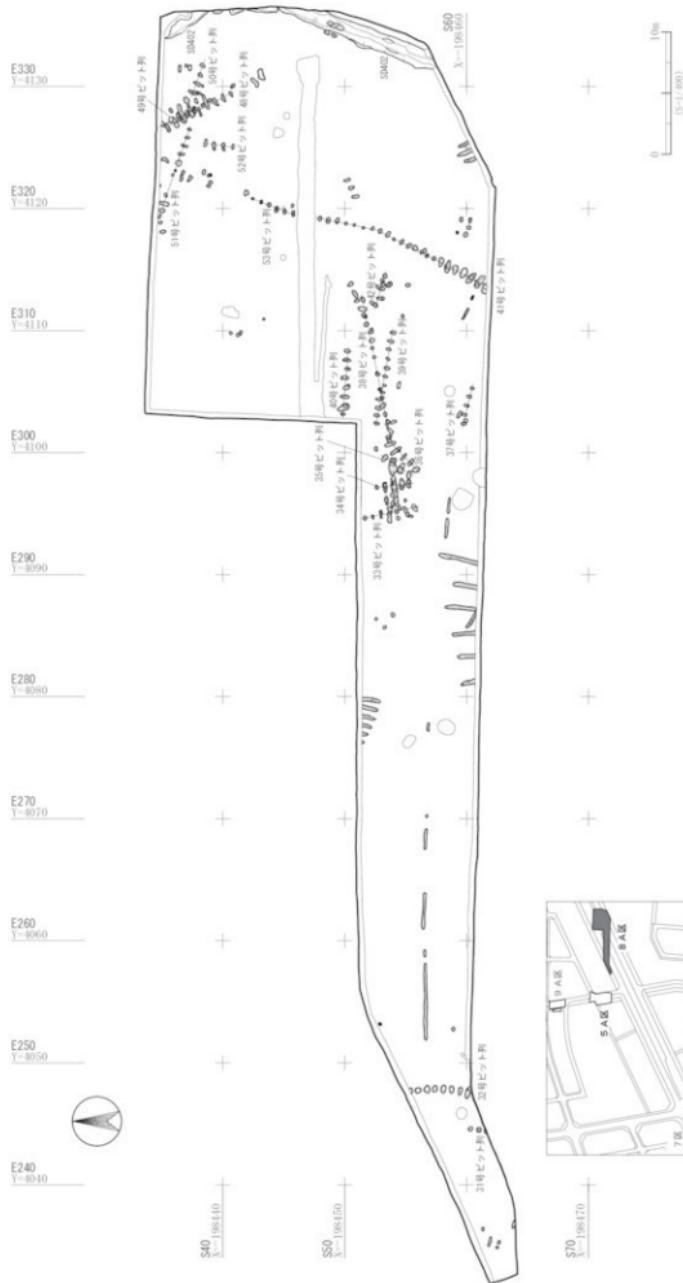
31号ピット列（第42～44図） E240・S60グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。検出長は1.45mで、3基の梢円形ピットが25～35cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-7°-Eで、各ピットの規模は長軸38～40cm、短軸32～38cm、深さ4～11cmである。堆積土は单層である。遺物は、陶磁器の小片が出土した。

32号ピット列（第42～44図） E240・S50～60グリッドで検出し、両端は調査区外へ延びる。検出長は5.05mで、8基の梢円形あるいは溝状のピットが10～40cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-3°-Eである。各ピットの規模は長軸55～104cm、短軸25～52cm、深さ5～20cmである。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

33号ピット列（第42～44図） E290・S50グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる可能性がある。検出長



第42図 大野田古墳群 8A区Ⅲ層遺構配置図、SD402溝跡断面図



第43図 大野田古墳群8A区III層全体図

は4.50mで、7基の楕円形もしくは溝状のビットが25~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-12°-Wで、各ビットの規模は長軸36~133cm、短軸18~35cm、深さ3~16cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

34号ビット列（第42~44図） E290・S50グリッドで検出した。検出長は2.90mで、5基の楕円形あるいは溝状のビットが15~40cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-6°-Wで、各ビットの規模は長軸35~290cm、短軸20~48cm、深さ4~23cmで、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

35号ビット列（第42~44図） E290・S50グリッドで検出した。検出長は2.84mで、4基の楕円形もしくは溝状のビットが10~40cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-31°-Eで、各ビットの規模は長軸65~140cm、短軸30~60cm、深さ5~23cmである。堆積土は単層である。遺物は、陶磁器の小片が出土した。

36号ビット列（第42~44図） E290~300・S50グリッドで検出した。検出長は3.45mで、5基の楕円形もしくは溝状のビットが25~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-45°-Eで、各ビットの規模は長軸65~110cm、短軸20~40cm、深さ4~12cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

37号ビット列（第42~44図） E300・S50~60グリッドで検出した。検出長は3.25mで、5基の楕円形のビットが45~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-75°-Wで、各ビットの規模は長軸35~45cm、短軸22~25cm、深さ3~6cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

38号ビット列（第42~44図） E300~310・S50グリッドで検出した。検出長は11.80mで、16基の楕円形もしくは溝状のビットが20~105cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-78°-Eである。各ビットの規模は長軸25~75cm、短軸18~40cm、深さ3~10cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

39号ビット列（第42~44図） E300・S50グリッドで検出した。検出長は7.80mで、12基の楕円形あるいは溝状のビットが32~56cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-80°-Wで、各ビットの規模は長軸30~62cm、短軸14~26cm、深さ2~7cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

40号ビット列（第42~44図） E300・S40~50グリッドで検出した。西側の調査区外へ延びると思われる。検出長は5.45mで、8基の楕円形もしくは溝状のビットが18~45cm間隔で並んでいる。主軸方向N-85°-Wで、各ビットの規模は長軸38~100cm、短軸22~52cm、深さ2~10cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

41号ビット列（第42~44図、図版8） E310・S40~60グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。検出長は15.70mで、23基の楕円形もしくは溝状のビットが16~50cm間隔で並んでいる。主軸方向は南側でN-27°-E、北側ではN-12°-Eとなる。各ビットの規模は長軸22~125cm、短軸18~55cm、深さ2~22cmである。堆積土は単層である。遺物は、須恵器坏の小片が出土した。

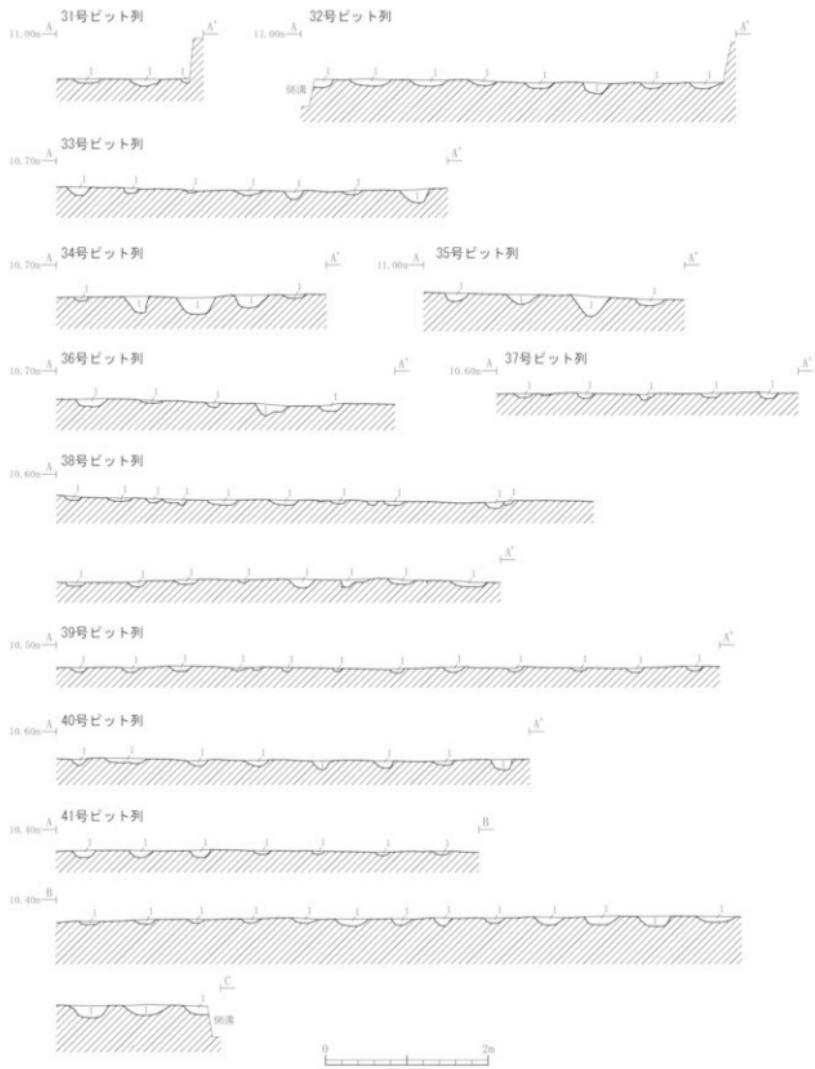
42号ビット列（第42・43・45図） E310・S50グリッドで検出し、検出長は2.83mで、5基の楕円形もしくは溝状のビットが5~54cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-70°-Wで、各ビットの規模は長軸38~78cm、短軸22~35cm、深さ3~12cmである。遺物は出土していない。

48号ビット列（第42・43・45図） E320・S30~40グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる可能性がある。

49号ビット列と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は6.12mで、9基の楕円形もしくは溝状のビットが30~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-28°-Wで、各ビットの規模は長軸25~183cm、短軸22~50cm、深さ2~12cmである。堆積土は単層である。遺物は、土師器坏や須恵器坏などの小片が出土した。

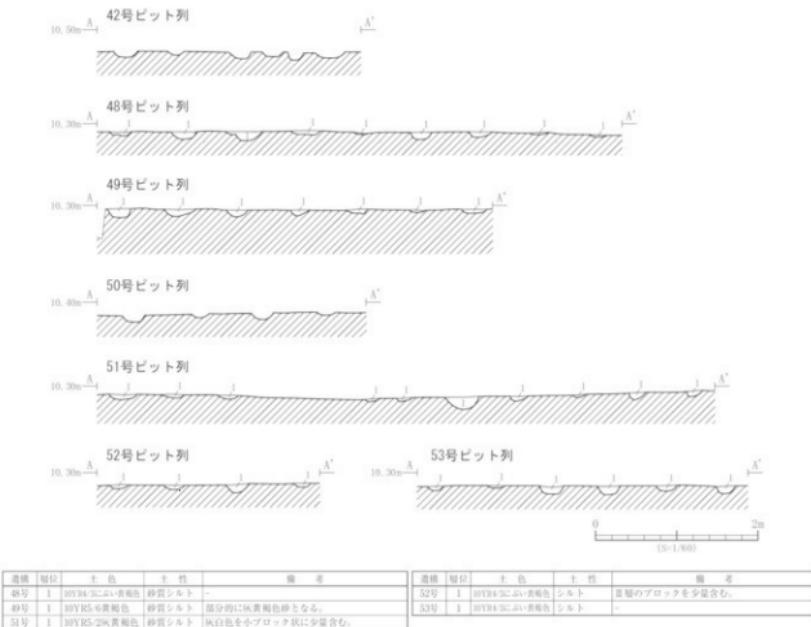
49号ビット列（第42・43・45図） E320・S30グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。48号ビット列と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長は4.65mで、7基の楕円形あるいは溝状のビットが36~53cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-27°-Wで、各ビットの規模は長軸30~75cm、短軸20~37cm、深さ2~12cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

50号ビット列（第42・43・45図） E320~330・S30グリッドで検出し、検出長は2.65mで、4基の楕円形もし



選択	層序	土色	土性	備考	選択	層序	土色	土性	備考
31号	I	10YR4/2B 黄褐色	粘土質シルト	動性・縮まりあり。	40号	I	2.5Y5/3黄褐色	シルト	酸化鉄塊を少含む。
32号	I	10YR4/1褐色	粘土質シルト	動性・縮まりあり。	41号	I	2.5Y4/1黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄塊を少含む。
33~39号	I	10YR4/3C-4E黄褐色	シルト						

第44図 31~41号ビット列断面図



第45図 42・48~53号ピット列断面図

くは溝状のピットが40~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-70°-Wで、各ピットの規模は長軸45~112cm、短軸24~32cm、深さ2~7cmである。遺物は出土していない。

51号ピット列（第42・43・45図）E310~320・S30グリッドで検出し、西側の調査区外へ続く。検出長は7.28mで、10基の梢円形もしくは溝状のピットが20~148cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-71°-Wで、各ピットの規模は長軸18~82cm、短軸16~45cm、深さ3~14cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

52号ピット列（第42・43・45図）E320・S30~40グリッドで検出し、検出長は2.48mで、4基の梢円形のピットが40~56cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-8°-Eで、各ピットの規模は長軸40~65cm、短軸20~30cm、深さ3~8cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

53号ピット列（第42・43・45図）E310~320・S40グリッドで検出し、検出長は4.50mで、6基の梢円形のピットが38~48cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-21°-Eである。各ピットの規模は長軸22~52cm、短軸20~30cm、深さ5~13cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

2) 溝跡

SD402溝跡（第42図、図版8）E330・S30~50グリッドで検出した。南北溝で、北西側に湾曲し、北側は西壁の一部が確認されたのみで詳細は不明である。検出規模は長さ約18.30m、幅120~180cm、深さ44~55cmである。主軸方向は、南北溝でN-21°-Eである。断面形は概ね逆台形である。堆積土は4層に分層される。遺物は、上師器坏の小片が出土した。

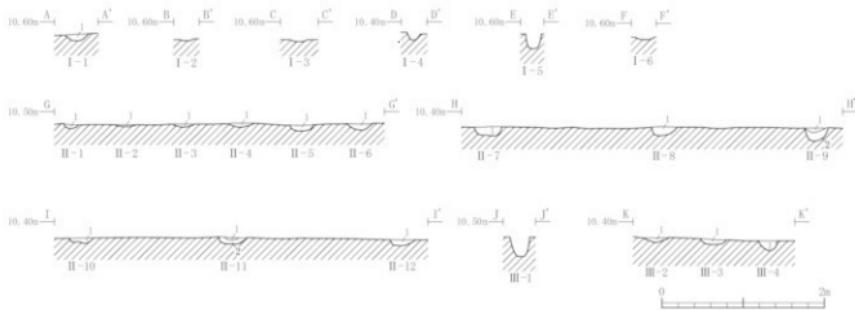
3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向からI～III群に分けられる。

I群（第42・46図） E230～310・S50～60グリッドで検出した東西方向の遺構群であるが、全体的に散漫な分布状況である。遺構は6条の小溝で構成され、主軸方向はN-64°～88°-Wである。検出長は0.70～17.20mで、幅10～30cm、深さ2～14cmである。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

II群（第42・46図） E270～290・S50～60グリッドで検出した南北方向の遺構群で、12条の小溝で構成されている。主軸方向によりN-4°～15°-EのものとN-2°～16°-Wのものに分けられる。検出長0.20～3.30m、幅は15～40cm、深さ2～34cmで、小溝の間隔は0.4m前後の狭いものと、1.60～1.70mの広いものがある。堆積土は黒褐色粘土質シルトにぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

III群（第42・46図） E280～320・S40～60グリッドで検出した散漫な分布を示す北西から南東方向の遺構群で、4条の小溝で構成されている。主軸方向はN-18°～56°-Wで、検出長は1.80～10.75m、幅15～33cm、深さ2～27cmである。小溝の間隔はIII-1・2間が36.50mと距離があるが、他は0.35m程度である。堆積土はにぶい黄褐色砂質土を主体とする。遺物は出土していない。



第46図 小溝状遺構群断面図

4) ピット（第42・43図）

52基のピット（P4389～4401、5124～5131・5134～5146、番号無18）を検出した。ピットは調査区全域に散漫に分布している。遺物は、土師器の小片が出土した。

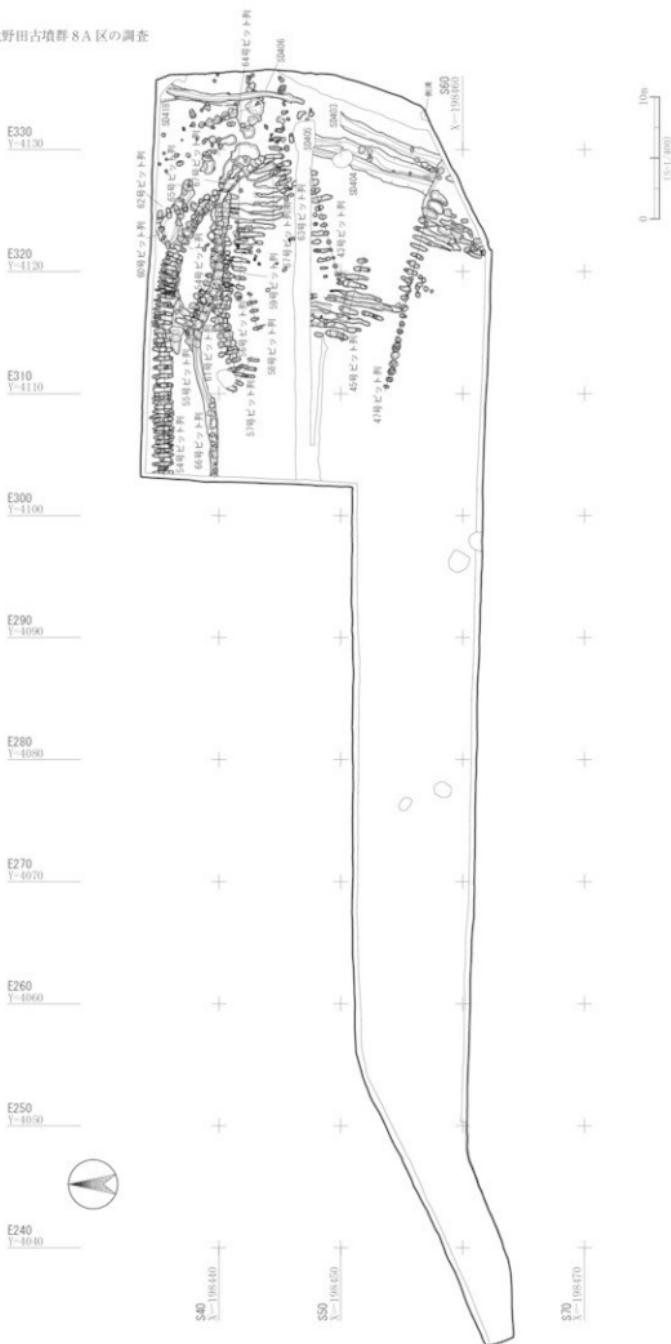
(2) IV層検出の遺構と遺物（第47・48図、図版7）

1) 溝跡

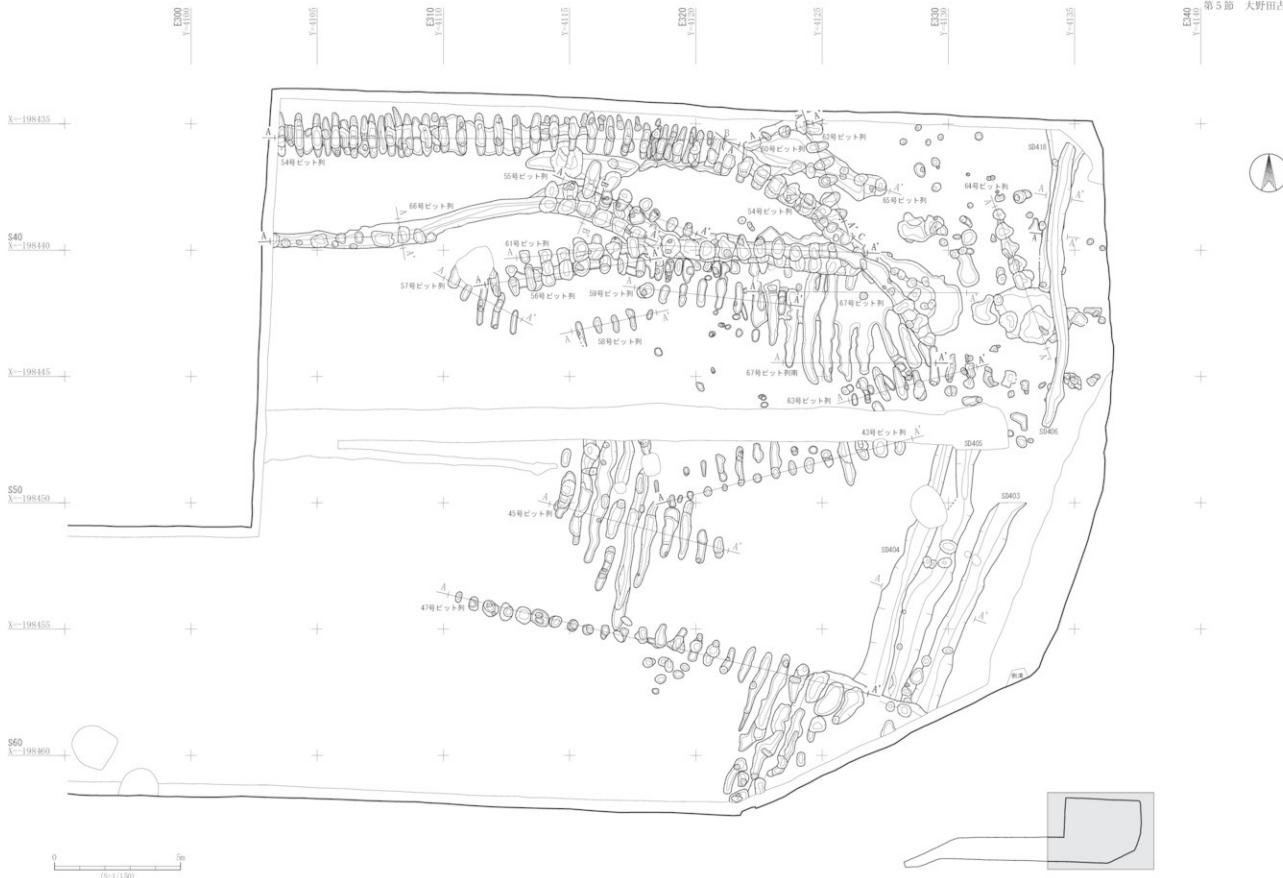
SD403溝跡（第48・49図、図版8） E320～330・S50グリッドで検出した。ピット5基と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は9.60m、幅80～110cm、深さ7～16cmである。主軸方向はN-23°-Eである。断面形は皿状で、堆積土は2層に分層される。遺物は、内面黒色処理の土師器環の小片が出土した。

SD405溝跡（第48・49図、図版8） E320～330・S40～50グリッドで検出した。SD405溝跡、47号ピット列と重複関係にあり、SD405溝跡より新しく、47号ピット列より古い。検出長は12.50m、幅53～132cm、深さ4～23cmで、主軸方向はN-18°-Eである。断面形は概ね皿状で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

第5節 大野田古墳群8A区の調査



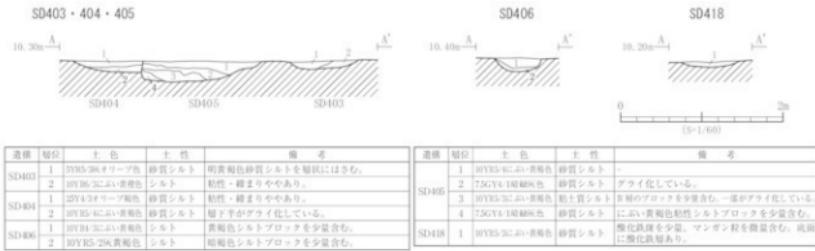
第47図 大野田古墳群8A区IV層全体図



SD405溝跡（第48・49図、図版8） E320～330・S40～50グリッドで検出した。SD404、ピット11基と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は1220m、幅50～135cm、深さ5～26cmで、主軸方向はN-16°-Eである。断面形は概ね逆台形で、堆積土は4層に分層される。遺物は、内面もしくは両面黒色処理された土師器坏や須恵器など的小片が出土した。

SD406溝跡（第48・49図） E330・S30～40グリッドで検出した。SD418、64号ピット列、ピット13基と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は11.30m、幅35～70cm、深さ4～18cmで、主軸方向はN-6°-Eである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD418溝跡（第48・49図） E330・S30～40グリッドで検出した。SD406、64号ピット列、ピット3基と重複関係にあり、ピットより古く、他の遺構よりも新しい。検出長は6.45m、幅50～150cm、深さ3～8cmである。主軸方向はN-10°-Eで、断面形は皿状である。遺物は、須恵器坏の小片が出土した。



第49図 SD403～406・418溝跡断面図

2) ピット列

17列を検出した。平面形が楕円形や溝状のピットが列状に並ぶ遺構をピット列とした。

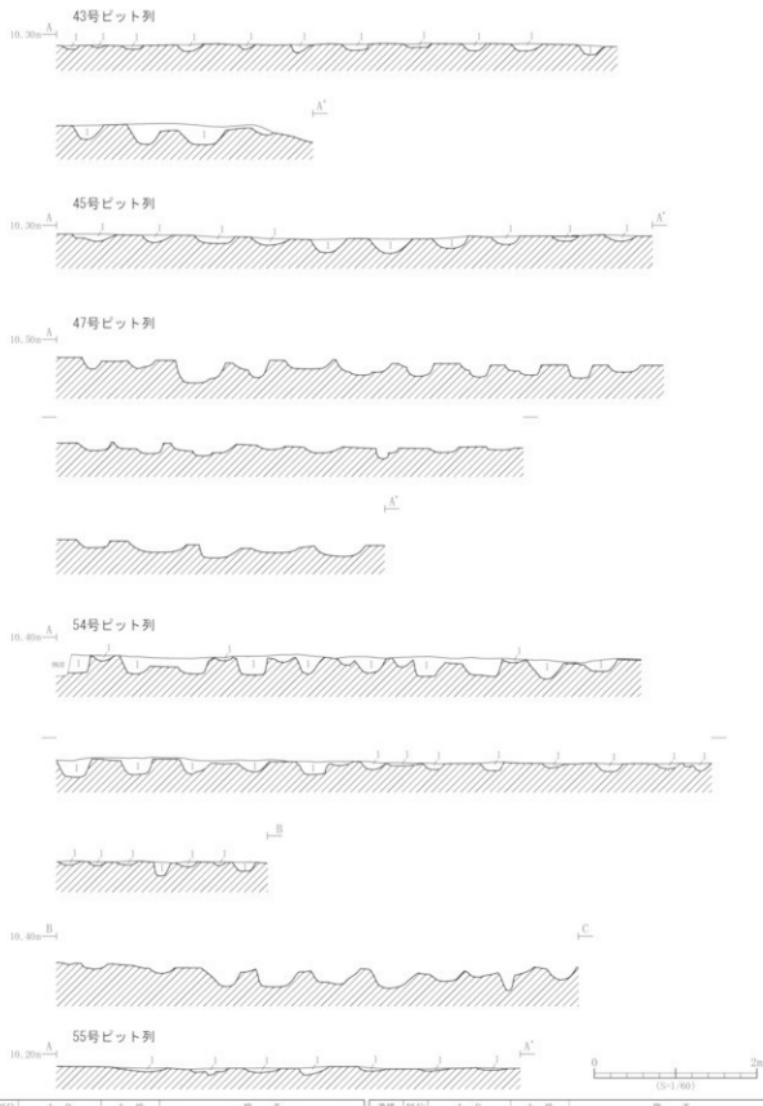
43号ピット列（第47・50図） E310～320・S40～50グリッドで検出し、北東側は搅乱されている。検出長は9.60mで、15基の楕円形もしくは溝状のピットが6～45cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-75°-Eである。各ピットの規模は、長軸25～170cm、短軸16～57cm、深さ5～25cmである。堆積土は単層である。遺物は、土師器坏や須恵器坏の小片が出土した。

45号ピット列（第47・50図、図版8） E310～320・S40～50グリッドで検出した。検出長は7.00mで、10基の楕円形もしくは溝状のピットが10～30cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-75°-Wである。各ピットの規模は、長軸83～760cm、短軸10～70cm、深さ3～21cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

47号ピット列（第47・50図、図版8） E310～320・S50～60グリッドで検出した。SD404と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長は16.75mで、24基の楕円形もしくは溝状のピットが5～30cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-78°-Wである。各ピットの規模は、長軸42～425cm、短軸25～85cm、深さ2～24cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

54号ピット列（第47・50図、図版8） E300～320・S30～40グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。62・66号ピット列と重複関係にあり、62号ピット列よりも新しく、他の遺構よりも古い。ピット列は東西方向から南東に折れる。検出長は28.20mで、57基の楕円形もしくは溝状のピットが近接して並び、部分的に連結している部分がある。主軸方向は、東西正方向からN-52°-Wへ変わる。各ピットの規模は、長軸35～200cm、短軸12～55cm、深さ5～30cmである。堆積土は単層である。遺物は、内面黒色処理された土師器坏や底部糸切りの須恵器坏の小片が出土した。

第5節 大野古古墳群8A区の調査



第50図 43・45・47・54・55号ピット列断面図

55号ピット列（第47・50図、図版8） E310・S30グリッドで検出し、66号ピット列と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長は4.80mで、7基の楕円形もしくは溝状のピットが10~40cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-68°-Wで、各ピットの規模は、長軸55~155cm、短軸35~60cm、深さ5~23cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

56号ピット列（第47・48・51図、図版8） E310~320・S40グリッドで検出した。57・59・61号ピット列と重複関係にあり、57号ピット列よりも新しく、他の遺構よりも古い。検出長は12.05mで、20基の楕円形もしくは溝状のピットが近接して並び、溝状に連結する部分もある。ピット列はやや蛇行するが概ね東西方向を示し、主軸方向は西側はN-81°-E、東側はN-87°-Wである。各ピットの規模は、長軸33~145cm、短軸18~65cm、深さ5~27cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は、須恵器坏の小片が出土した。

57号ピット列（第47・48・51図、図版8） E310・S40グリッドで検出したが、一部は攪乱で削平されている。56号ピット列と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は3.40mで、5基の溝状ピットが25~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-62°-Wである。各ピットの規模は、長軸66~185cm、短軸24~42cm、深さ2~13cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

58号ピット列（第47・48・51図、図版8） E310・S40グリッドで検出し、検出長は3.10mで、5基の楕円形もしくは溝状のピットが40~50cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-77°-Eで、各ピットの規模は、長軸40~104cm、短軸22~32cm、深さ5~9cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

59号ピット列（第47・48・51図、図版8） E310~320・S40グリッドで検出し、56・67号ピット列と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長は5.90mで、8基の楕円形もしくは溝状のピットが25~45cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-83°-Wである。各ピットの規模は、長軸72~180cm、短軸24~67cm、深さ5~20cmで、堆積土は単層である。遺物は、須恵器の小片が出土した。

60号ピット列（第47・48・51図、図版8） E320・S30グリッドで検出し、北東側は調査区外へ延びると思われる。62号ピット列と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長は1.82mで、3基の楕円形ピットが25~35cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-72°-Eである。各ピットの規模は、長軸44~60cm、短軸20~40cm、深さ8~15cmである。堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

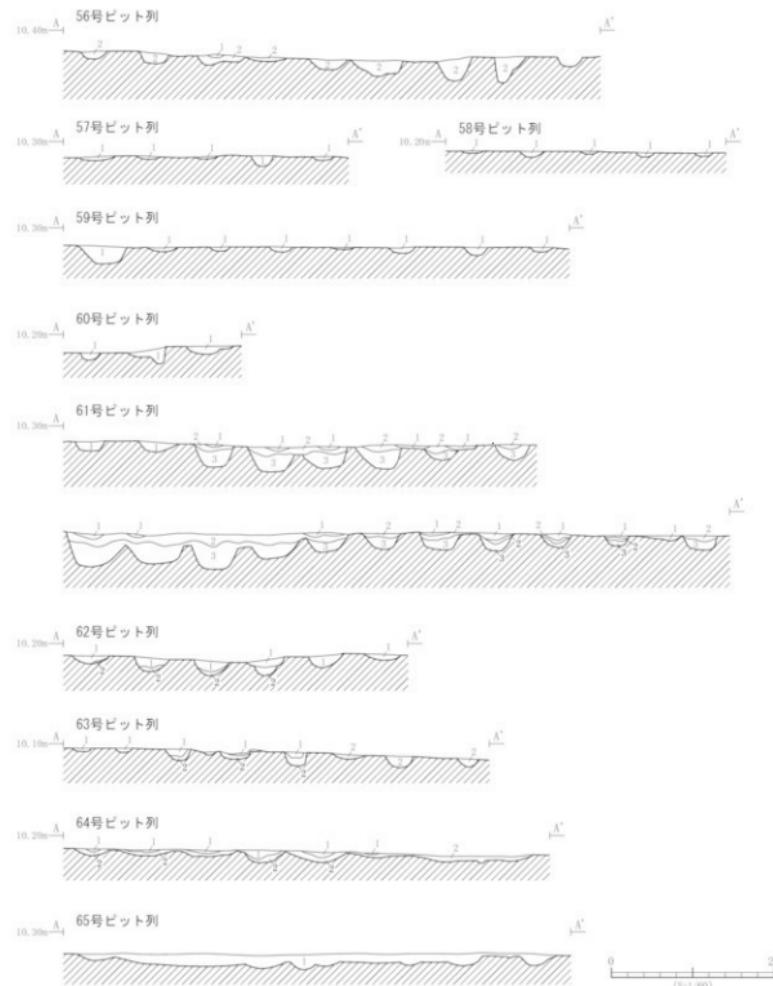
61号ピット列（第47・48・51図、図版8） E310~320・S30~40グリッドで検出し、56・66・67号ピット列と重複関係にあり、本遺構が新しい。ピット列は東西方向に続いているが、東側で南東方向に曲がる。検出長は18.00mで、23基の楕円形ピットが近接して並び、中央から東側のピットは溝と連結している。主軸方向は、西側ではN-85°-E、中央ではN-87°-W、東側ではN-45°-Wである。各ピットの規模は、長軸30~140cm、短軸25~75cm、深さ10~38cmである。堆積土は3層に分層される。遺物は、内面黒色の土師器坏や須恵器坏の小片が出土した。

62号ピット列（第47・48・51図、図版8） E320・S30グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びると思われる。54・60号ピット列と重複関係にあり、本遺構が古い。検出長は4.05mで、6基の楕円形ピットが20~30cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-18°-Wで、各ピットの規模は長軸75~88cm、短軸35~60cm、深さ10~25cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

63号ピット列（第47・48・51図） E320~330・S40グリッドで検出し、検出長は5.00mで、8基の楕円形もしくは溝状のピットが25~40cm間隔で並んでいる。主軸方向はN-75°-Eで、各ピットの規模は長軸48~155cm、短軸20~50cm、深さ5~20cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

64号ピット列（第47・48・51図） E330・S30~40グリッドで検出し、SD406・418と重複関係にある。SD406より新しく、他の遺構より古い。検出長は5.65mで、7基の楕円形もしくは土坑状のピットが連なっている。主軸方向はN-20°-Wである。各ピットの規模は長軸48~305cm、短軸44~200cm、深さ10~17cmである。堆積土は2層

第5節 大野古古墳群8A区の調査



第51図 56~65号ビット列断面図

遺跡	編号	土色	土性	備考	遺跡	編号	土色	土性	備考
56号	1	10YR 25/26黄褐色	砂質シルト	-	62号	1	10YR 46-25K黄褐色	砂質シルト	灰白色火成岩(φ20mm内)をブロック状に含む。
	2	25YR 25/26灰褐色	砂質シルト	酸化鉄斑をやや多く含む。		2	10YR 45-25K黄褐色	砂質シルト	酸化鉄、マンガン鉱を少量含む。
57号	1	10YR 44/26黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑・マンガン鉱を多量含む。	63号	1	10YR 46-1灰褐色	砂質シルト	-
	2	10YR 45-25K黄褐色	砂質シルト	マンゴン鉱をやや多く含む。		2	10YR 45-25K黄褐色	砂質シルト	V字型を強く多く含む。灰褐色砂質シルトブロックを少部分含む。
58号	1	10YR 45-25/26黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑をやや多く含む。	64号	1	-	-	黄褐色砂質土にぶつ、黄褐色砂質土を含む。
	2	10YR 45-25/26黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑を多量含む。		2	10YR 46-25K黄褐色	砂質シルト	上面に明瞭な酸化鉄斑・マンゴン鉱が形成され、
60号	1	25YR 4/26灰褐色	シルト	酸化鉄・マンゴン鉱を少量含む。	65号	1	10YR 46-25K黄褐色	砂質シルト	下部に酸化鉄斑をやや多く含む。
	2	10YR 45-25/26黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑に灰白色火成岩(φ20mm内)をブロック状に含む。		2	-	-	-
	3	-	-	-		3	-	-	-

に分層される。遺物は、須恵器坏の小片が出土した。

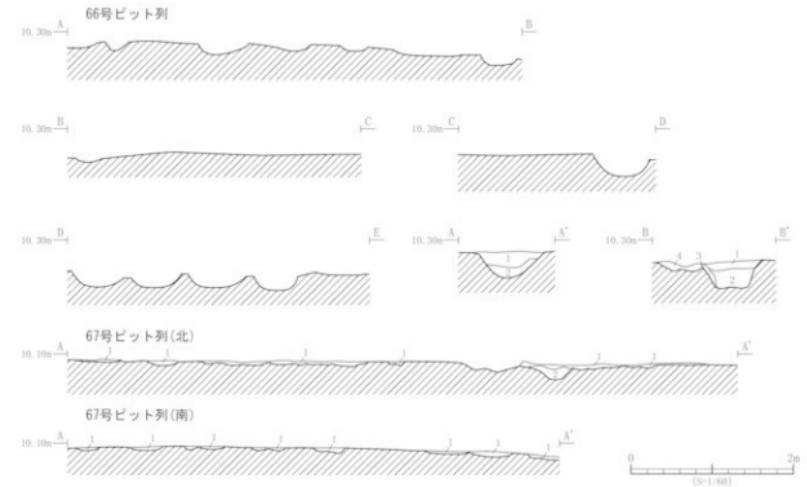
65号ビット列（第47・48・51図、図版8） E320・S30グリッドで検出した。60・62号ビット列と重複関係にあり、本道構が古い。検出長は5.95mで、浅い溝状の窪みの中に6基の楕円形ビットが疎らに並んでいる。主軸方向はN-75°-Wである。各ビットの規模は、長軸25~68cm、短軸25~45cm、深さ8~20cmである。堆積土は単層である。遺物は、内面黒色処理の土師器坏と須恵器坏の小片が出土した。

66号ビット列（第47・48・52図、図版8） E300~310・S30グリッドで検出し、東側は道構間の重複により途切れ、西側の調査区外へ延びている。55・61号ビット列と重複関係にあり、本道構が古い。検出長は15.20mで、浅い溝状の中に18基の楕円形ビットが穿たれ、中央部分は溝のみとなっている。道構はやや蛇行しているが主軸方向は東西を示している。各ビットの規模は、長軸25~90cm、短軸20~70cm、深さ6~57cmである。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

67号ビット列（第47・48・52図） E320・S40グリッドで検出した。59・61号ビット列と重複関係にあり、本道構が古い。主軸方向はN-89°-Wである。検出長は7.80mで、9基の溝状のビットで構成されている。東側のビットは連結した状態で確認され、短い間隔で並んでいる。各ビットの規模は、長軸110~445cm、短軸32~70cm、深さ5~20cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は、内面黒色処理の土師器坏と底部糸切りの須恵器坏の小片が出土した。

3) ビット（第47・48図）

65基のビット（番号なし）を検出した。調査区東側のE320~330・S30~50グリッドに分布している。遺物は、土師器の小片が出土した。



道構	層位	土 色	土 性	備 考
66号	1	10YR5-29K 黄褐色	シルト	酸化鉄微量、V層下間に微量含む。
	2	10YR4/29K 黄褐色	シルト	マンガン粒・焼化鉄・V層プロックを少量含む。
	3	10YR4/29K 黄褐色	シルト	上部に酸化鉄を多く含む。
	4	10YR5-1褐色	砂質シルト	黄褐色シルトプロックを斑状に多く含む。酸化鉄を少量含む。下部にマンガン粒を少量含む。

道構	層位	土 色	土 性	備 考
67号	1	10YR6-29K 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む。
	2	10YR4/29K 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。マンガン粒を少量含む。

第52図 66・67号ビット列断面図

(3) V層検出の遺構と遺物(第54・55図、図版8)

1) 古 墳

本遺跡(王ノ塙古墳を含む)では、平成16年度までに古墳時代中期後半の古墳32基が調査されている。これらの古墳のうち墳丘が遺存していた古墳は第6節で報告する王ノ塙古墳、第7節で報告する春日社古墳で、その他の古墳の墳丘は削平され、周溝が残存するだけである。ここで報告する29号墳も墳丘が削平されて周溝のみが遺存していた。

大野田29号墳(第54・55図、図版9)

【位置・立地】E230~240・S50~60グリッドで検出した。

【新旧関係】P4406~4415・4419~4423と重複関係にあり、本遺構が古い。

【規模等】周溝内縁径8.05m、外縁径12.70mの円墳で、周溝のみの検出である。周溝の上端幅2.08~2.70m、下端幅0.30~0.50m、深さ62~82cmである。断面形は概ね逆台形である。周溝堆積土は、5層に分層される。

【出土遺物】周溝堆積土より埴輪片や土器部の小片が出土し、2点を第53図に図示した。1は円筒埴輪の口縁部片、2は朝顔形埴輪の頭部凸帯片である。



No.	登録番号	出土遺構	層	種別	器種	法 葉(cm)	外周調整	内周調整	備 考	写真図版
1	S-21	29号墳	-	埴輪	円筒	-×- 縁1.1	ヨコナデ・タテハケメ	ヨコナデ・ハケメ	口縁部。	-
2	S-22	29号墳	-	埴輪	朝顔	-×- 縁2.0 内管壁とD2.25角5.02	ヨコナデ	ナデ	頭部凸帯。	-

第53図 29号墳出土遺跡

2) 土 坑

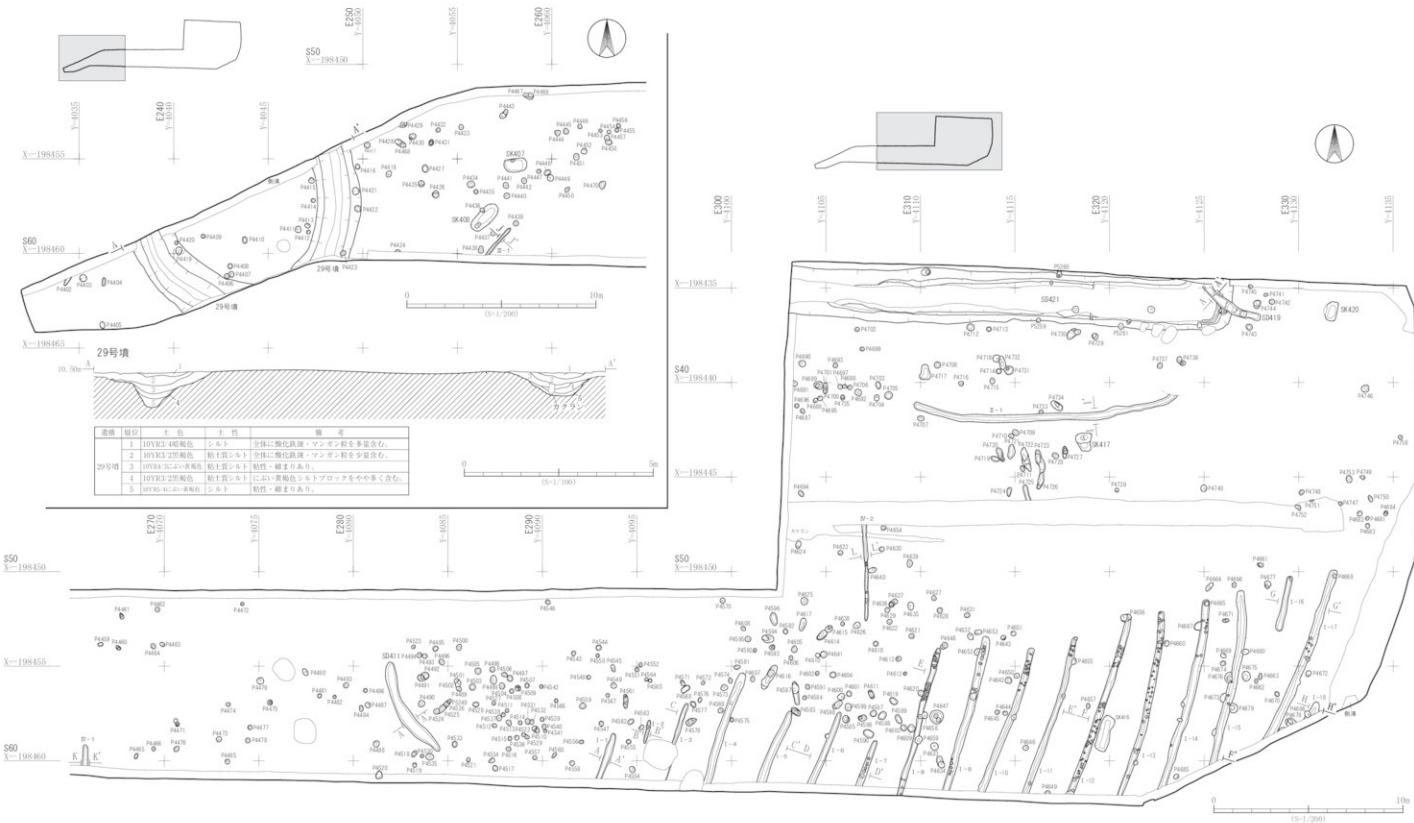
SK407土坑(第56図、図版9) E250・S50グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸122cm、短軸72cm、深さ22cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。北側にはピット状の浅い窪みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK408土坑(第56図、図版9) E250・S50グリッドで検出した。P4436と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-38°-Eである。規模は長軸175cm、短軸80cm、深さ14cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面の南西端にはピット状の浅い窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

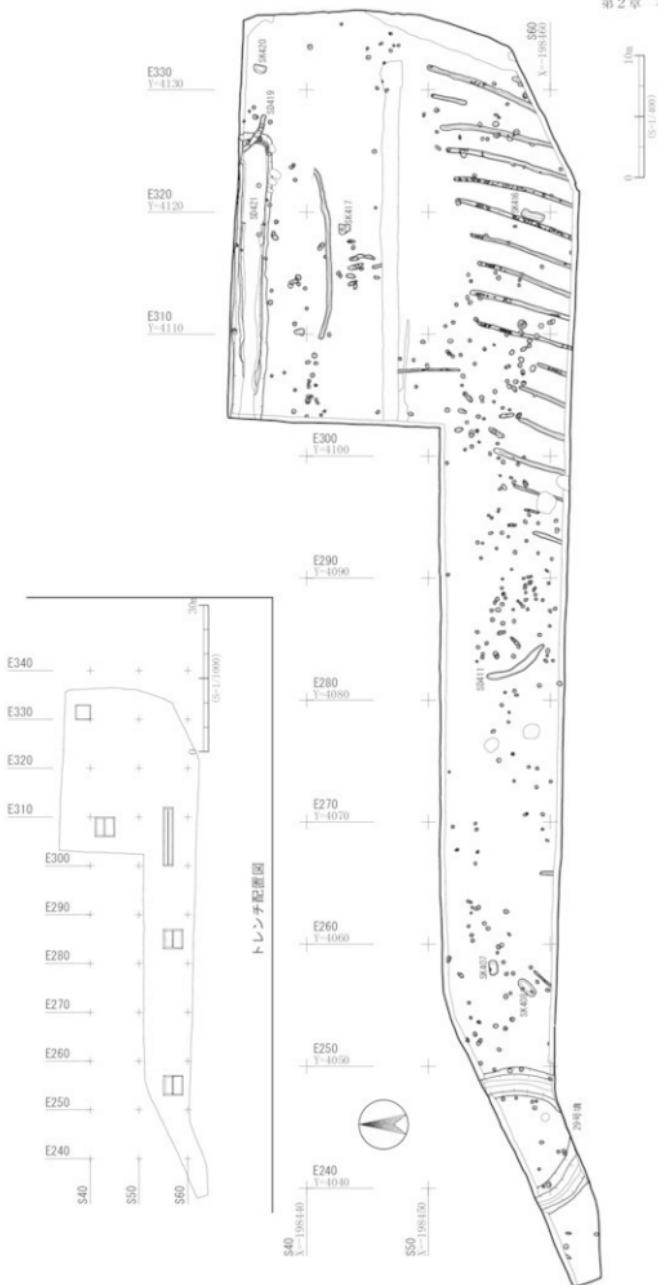
SK416土坑(第56図) E310~320・S50グリッドで検出した。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はN-19°-Eである。規模は長軸190cm、短軸58~66cm、深さ67cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK417土坑(第56図) E310・S40グリッドで検出した。平面形は隅丸台形で、北側に窪みがみられる。長軸方向はN-4°-Wで、規模は長軸95cm、短軸50~85cm、深さ27~46cmである。壁面は北側が急激に立ち上がり、南側はなだらかに立ち上がり、断面形は柄杓状である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK420土坑(第56図、図版9) E330・S30グリッドで検出し、西壁の一部が擾乱される。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-13°-Eである。規模は長軸102cm、短軸60cm、深さ35cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸が認められる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

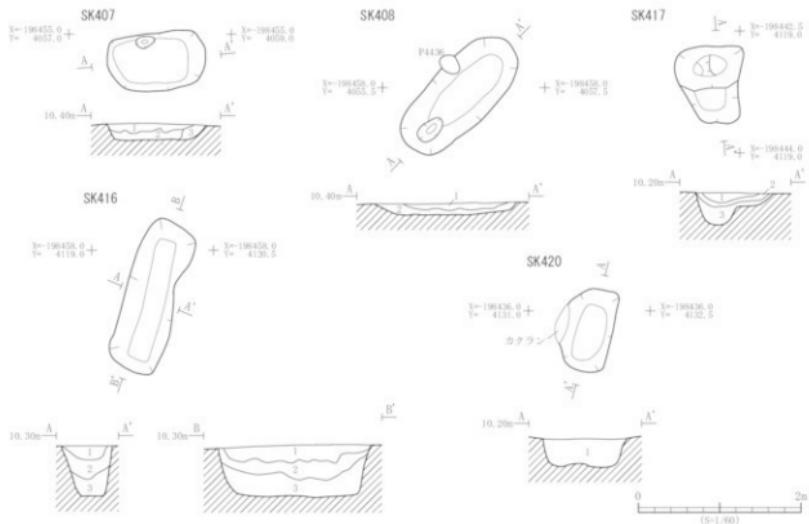


第54図 大野古墳群 8A区V層遺構配置図、29号墳断面図



第55図 大野田古墳群 8A区V層全体図

第5節 大野田古墳群8A区の調査



遺構	層位	土 色		土 性		備 考
		1	2	1	2	
SK407	1	10YR2/3明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を少量含む。	
SK407	2	2SY4-1黒褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を多量、V型の粒子を微量含む。グラナイト化している。	
SK408	3	10YR5-4C-5V黄褐色	-	粘土質シルトブロック	(φ30mm内)を多く含む。	
SK416	1	10YR3-4明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	
SK416	2	10YR4-4明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	
SK417	1	10YR4-4明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	
SK420	1	10YR4-3明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	
SK420	2	10YR4-3明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	
SK420	3	10YR4-3明褐色	-	粘土質シルト	粘化鉄粒を微量含む。	

第56図 SK407・408・416・417・420土坑平面図・断面図

3) 溝跡

SD411溝跡（第54・57図）E280・S50グリッドで検出した北西-南東方向の溝で、やや湾曲する。主軸方向はN-30°-Wで、検出長は5.40m、幅30~70cm、深さ6cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD419溝跡（第54・57図）E320・S30グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。SD421と重複関係にあり、本遺構が新しい。北西-南東方向の溝で、やや湾曲する。主軸方向はN-61°-Wで、検出長は3.50m、幅34~54cm、深さ7~21cmである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD421溝跡（第54・55図）大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。



遺構	層位	土 色		土 性		備 考
		1	2	1	2	
SD411	1	10YR3-3明褐色	シルト	V型ブロック(φ50mm内)	を多量含む。	
SD419	1	10YR3-3明褐色	シルト	粘化鉄粒を少量含む。		
SD419	2	10YR3-3明褐色	シルト	V型のブロックを多く含む。		

第57図 SD411・419溝跡断面図

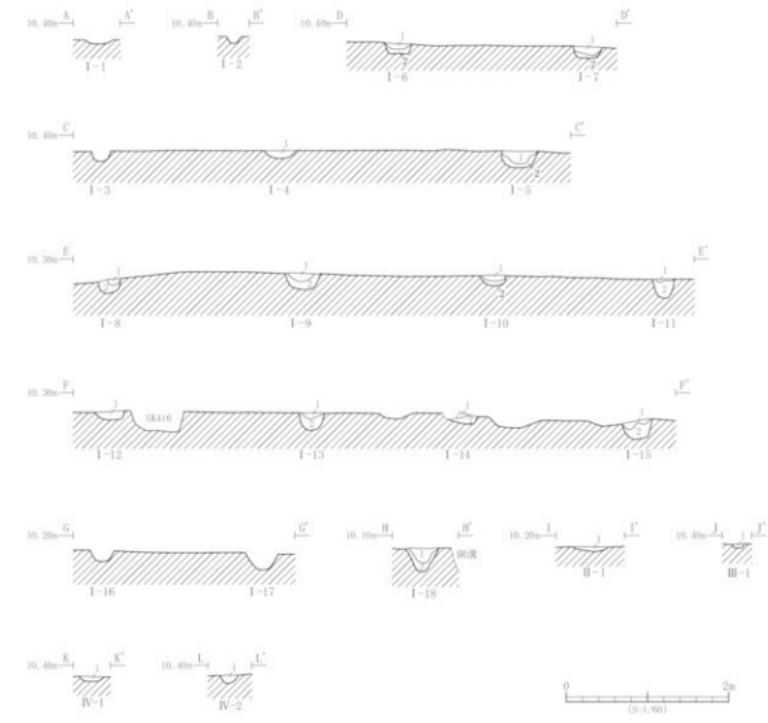
4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向の違いからⅠ～Ⅳ群に分けられる。

Ⅰ群（第54・58図） E290～330・S50～60グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、18条の小溝で構成されている。方向はN-12°～23°-Eで、検出長は1.3～12.4m、幅15～55cm、深さ3～36cm、小溝の間隔は1.30～2.40mである。堆積土は褐色シルト、暗褐色シルト、灰黃褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

Ⅱ群（第54・58図） E300～320・S40グリッドで検出した東西方向の遺構群である。Ⅱ群は1条のみで、やや湾曲している。方向はN-88°-Eで、検出長は14.10m、幅28～46cm、深さ5～9cmである。堆積土は灰黃褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

Ⅲ群（第54・58図） E250・S50グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群である。Ⅲ群も1条のみであるが、調査区外に広がることを想定している。方向はN-42°-Eで、検出長は1.95m、幅15～20cm、深さ4～8cmである。



第58図 小溝状遺構群断面図

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
I-4-12	1	10YR4.4-16色	シルト	V型ブロックを多量含む。	B-1	1	10YR4.2/6褐色	シルト	無化鉄・V型ブロックを少量含む。
13-15	1	10YR4.2/6褐色	シルト	B60.0・無鉄・V型小プロフ(φ10cm)を少量含む。	B-2	1	10YR4.6褐色	シルト	マンガン板を微量含む。
1-18	1	10YR4.4褐色	シルト	V型ブロックを多量含む。	B-3	1	10YR4.6-16褐色	シルト	褐色色筋ト青シレットブロックを少量含む。
	2	10YR5.2/6褐色	粘土質シルト	V型小プロフ・無化鉄土を少量含む。	B-2	1	10YR3.2褐色	シルト	φ30cm内のV型・三褐色ブロックをやや多く含む。